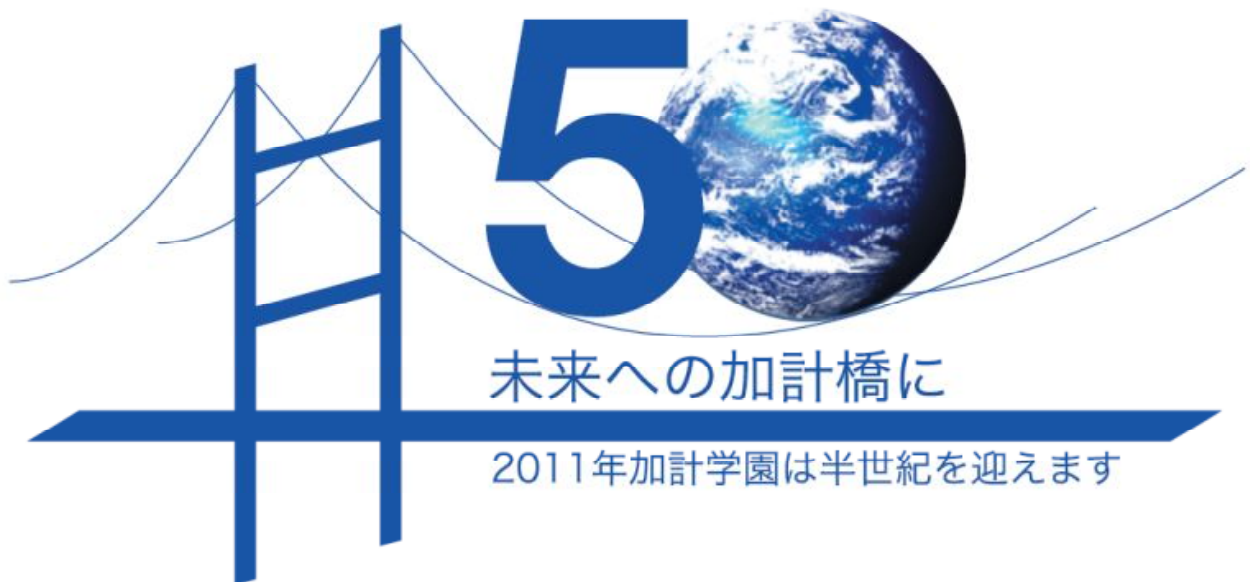


平成23年度
事業報告



学校法人 加計学園

建学の理念

ひとりひとりの
若人が持つ能力を
最大限に引き出し
技術者として
社会人として
社会に貢献できる
人材を養成する

目次

理事長挨拶	1
法人全般	2
岡山理科大学	18
倉敷芸術科学大学	29
千葉科学大学	37
岡山理科大学附属高等学校	44
岡山理科大学附属中学校	50
岡山理科大学専門学校	55
玉野総合医療専門学校	61
倉敷食と器専門学校	66

理事長挨拶

学校法人 加計学園

理事長・総長 加計 晃太郎



戦後、創立者加計勉は、一面の焼け野原となった広島の中で「資源の乏しい我が国の復興には教育こそ肝要」との信念のもと教育の道を志し、昭和36年に加計学園を設立しました。以来、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」という建学の理念のもと時代や社会のニーズを先取りした特色ある教育研究事業を展開し、現在、3大学、1高等学校、1中学校、3専門学校を擁する中四国で有数の教育研究機関へと発展して参りました。

平成23年に、創立50周年を迎えることができましたが、これもひとえに学内外の関係者各位のご支援、ご協力の賜であり、改めて御礼申しあげる次第です。また、その前年に本学園が設置する岡山理科大学及び倉敷芸術科学大学において教鞭を執られた鈴木章教授がノーベル化学賞を受賞されたことは、堅実な科学的基礎研究と高度な専門技術を重視した教育を行ってきた私ども教職員にとって何よりの朗報でありました。

しかしながら、その反面、3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の大災害を引き起こし、この大震災によって、大自然の大いなる力に対して私たち人類がどのように対処していくことができるのかを改めて考えさせられたとも言えます。現代のようにグローバル化した現代社会においては、科学技術の進歩と人間社会との調和、国際性、さらには危機管理の専門性を身につけた人材育成が急務であると、学校教育に携わる者の使命と責任の重さを痛感しております。

そして、その震災のあった年に奇しくも学園創立50周年を迎えた本学園は、その経験を活かし、学園の原点である建学の理念に立ち返り、如何にしてこれからの時代と社会に貢献できる人材を育成していくか、そのために如何にして独自の教育研究機関をさらに充実させていくかという点に教職員の総力を結集しなければならないと改めて決意した次第です。「資源の乏しい我が国の復興には教育こそ肝要」という創立者の言葉を今こそ、思い起こす時であります。

このように、平成23年度は過去の半世紀にわたる本学園の成果を確認すると同時に、今後を見据える良い機会となりました。

平成23年度 事業報告

法人全般

学園事業

■創立者加計勉先生を語る会

本年の創立者の日（4月30日）に「創立者加計勉先生を語る会」を開催いたしました。

教職員一人ひとりの胸中にある創立者との懐かしい思い出と重ね合わせながら、創立者の偉業を心に刻む日になりました。

岡山理科大学第25号館理大ホールにて実施、約300名が参加しました。

■鈴木章先生ノーベル化学賞受賞祝賀会

5月28日（土）、鈴木章先生をお招きしてノーベル化学賞受賞祝賀会を開催いたしました。鈴木章先生は平成7年から14年まで岡山理科大学、倉敷芸術科学大学の教授を務められ、この度、両大学より特別荣誉教授の称号を授与されました。

約400名の参加があり、顕著な業績をお祝いしました。

■省エネルギーの推進

平成21年度より省エネルギー推進委員会を定期的に開催し、省エネルギーに対する教職員の意識向上に努めています。本年度も、重点項目を設定し、省エネルギーに努めました。

平成23年度は省エネ会議を2回開催しており、エネルギー消費量は昨年度より6.9%減少しました。

■ヘルスパイア倉敷

平成22年にオープンしましたヘルスパイア倉敷（旧サンピア倉敷）にて、ラドン温浴施設を設置

いたしました。

これにより、人体に有益とされるラジウムなどの少量の放射能が人体に及ぼす作用について、倉敷芸術科学大学生命科学部などの各機関と共同で研究を進めています。

5月22日（日）、多目的ホールにおいて、川嶋朗講師の「統合医療とホルミシス」と題した講演が開催され、約350名の参加がありました。ラドン温浴の効果について、放射線と放射線ホルミシスを中心に統合医療の観点から講話されました。

■包括連携協定

①鹿児島県瀬戸内町

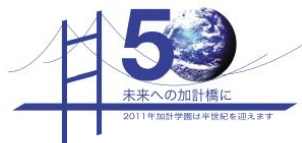
11月28日、鹿児島県瀬戸内町と包括連携協定を締結しました。岡山理科大学で調印式が行われ、加計晃太郎理事長と瀬戸内町の房克臣町長が協定書に署名しました。学園と町、学生と町民との交流を軸に、教育・研究、文化・スポーツ、健康・福祉、地域づくり・まちづくり等幅広い分野で連携協定を図りました。

②山陽新聞社

3月7日、山陽新聞社と包括連携協定を締結しました。加計学園50周年記念館で調印式が行われ、加計晃太郎理事長と越宗孝昌社長が協定書に署名しました。多彩な分野で貢献出来るよう連携協定を図りました。

50周年記念事業

本年度、加計学園創立50周年を迎えるにあたり、平成18年度に「創立50周年記念



事業委員会」を立ち上げ、事業内容を検討し、既に岡山理科大学において実施している「電光掲示板の設置」、「岡山理科大学正門の設置」をはじめ、各事業を進めて参りました。

以下の事業を完了、実施し、50周年を迎えることができました。

■加計学園創立50周年記念行事

- ① 9月10日（土）、本学園創立50周年と毎日新聞の創刊140年という節目を記念し、「命を守る防災新世紀—日本文化に根ざす自然との共生の知恵と科学技術の融合を目指して」を大阪の毎日新聞オーバホールにて開催し、約420名が熱心に耳を傾けました。作家椎名誠先生をはじめとする6氏をお招きし、自然を畏怖する日本の伝統的な防災意識の大切さを再認識しました。
- ② 9月17日（土）、岡山市のカンコースタジアムにて、ファジアーノ岡山の試合に協賛し、「加計学園創立50周年記念DAY」の一環として、KAKEフェスティバルを開催しました。各設置校が特色ある体験ブースを設置して行ったイベントには約1,000名の方が参加され、大いに盛り上がりました。
- ③ 11月16日（水）、柔道世界金メダリスト山下泰裕先生をお招きし「人生の金メダルを目指して」と題した講演会を開催しました。学生ら約450名に悔いのない生き方について講話されました。
- ④ 11月19日（土）、昨年ノーベル化学賞を受賞した鈴木章先生をお招きして、講演会を実施、約600名の参加がありました。

50周年記念館のテープカット、創立者加計勉銅像除幕式、胸像除幕式も行われました。

この後、笹ヶ瀬キャンパスにある加計記念体育館にて、加計学園創立50周年記念式典・祝賀会を開催し、約1,150名が参加しました。

同日、千葉科学大学マリーナキャンパスにて、毎日新聞社論説委員 与良正男先生による講演会「私たちが変われば政治も変わる」が開催され、約320名が参加しました。

この後行われた祝賀会には約400名の参加がありました。

- ⑤ 11月20日（日）、第一回加計学園杯日本語弁論国際大会決勝大会を開催しました。

予選大会は、ネパール、韓国、中国（上海）、中国（北京）、中国（成都）、マレーシア、スリランカ、ベトナム、ミャンマーの9会場で行われ、合計参加総数800名を超える中から9名が日本で開催される決勝大会出場の権利を獲得しました。9名の予選優勝者は、「私の知っている日本」と題し、約200名を前にそれぞれの民族衣装を身にまとい発表を行いました。

- ⑥ 3月11日（日）、千葉科学大学において、ノーベル化学賞受賞者の鈴木章先生をお招きしての特別講演会『ノーベル化学賞を受賞して』を開催しました。会場には在学学生や地元の高校生をはじめ、近隣の市町村から約800名に及ぶ聴衆が集まりました。東日本大震災の発生1年を迎える日であることから、鈴木先生の講演に先立ち、藤本准教授による講演『東日本大震災から1年、地震・津波を考える』を開催しました。その他、学生消防隊による放水のデモンストラクションが行われ、発生時間である14時46分には1分間の被災地への黙祷が捧げられました。

■記念行事

- ① 2月18日（土）、500年の伝統を誇る日本三大奇祭の一つ「西大寺会陽」の祝主に本学園が選ばれ、教職員やOBら181人が参加しました。極寒の中、水垢離を取って本堂の周りをか

けまわり、50周年イベントを勇ましく締めくくりました。

■出版物の作成等

50周年記念事業の一環として、以下の出版物を作成いたします。

- ①「創立50周年記念誌」の編纂を行います。同時に、映像・写真のデータベース化を図ります。
- ②創立者 加計 勉フィロソフィー「私学ひと筋にかけた“道”」を作成し、「創立者加計勉先生を語る会」（4月30日開催）にて配布いたしました。創立者の思いをより一層取り入れ、加筆修正したものを「加計学園創立50周年記念式典・祝賀会」（11月19日開催）にて配布いたしました。
- ③機関誌「50周年へGoGo!」の作成と配布をいたしました。平成24年度に最終版を発行する予定になっております。

■創立50周年記念館の建設



高校中庭に50周年記念館を建設いたしました。

延べ床面積1,400㎡の4階建てで、学園50年の歴史や各設置校の情報を紹介する展示スペー

スや、中・小規模の講演会や演奏会などを行える円形多目的ホール等があります。

■創立者加計勉の銅像設置



創立者加計勉の業績を称えるとともに、「建学の理念」の精神を引き継ぐ象徴として、岡山理科大学ロータリーの中心に、倉敷芸術科学大学蛭田二郎名誉教授制作の創立者の銅像を設置しました。

■加計勉基金の創設

50周年記念事業として、新たに50周年記念加計勉基金を創設します。これは教育助成などを行うことを目的とし、加計学園の8設置校を対象とした奨学制度とします。

■基金・募金事業

上記計画に要する資金調達のため、平成20年度から募金を行い、第2期募集期間（平成22年4月1日～平成24年3月31日）で寄付受付をしました。

特命事業関係

私学経営の厳しさが増す中で多様な財源確保方策の一助とし、且つ学園組織の簡素化等に資するため特命事業として、出資会社K2ライフラボによる事業を積極的に進めるとともに企業活動を広く展開しつつ学園へ寄与するよう努めました。

■主な事業

次の各種事業を積極的に展開して参りました。

①技術・研究シーズの社会還元事業の展開

- ・好適環境水事業（陸上閉鎖循環式養殖システム・海水魚淡水魚混泳化飼育水、魚体トリートメント浴用水）
- ・水質浄化事業（亜塩素酸・水族館、湖沼等）
- ・eラーニング事業（MOMOTAROシステム）
- ・化粧品開発事業（潤身シリーズ）
- ・その他の特許権、著作権に係る市場化事業

②学園業務支援事業の展開

- ・業務受託事業
- ・学外実習場の提供（アクア・洋菓子製造等実習）及び実習成果物受託販売（観賞魚等）
- ・消耗品調達代行システムの導入展開
- ・印刷・製本事業

③学生・教職員、地域住民等に対する学園サービス業務の代行又は提供事業

- ・図書類、学用品等の斡旋販売
- ・外貨宅配事業
- ・レンタル事業（袴・生活用品・各種物品）
- ・各種傷害保険等保険代理店事業

④ヘルスパイア倉敷等運営事業

ヘルスパイア倉敷の施設整備の進展に伴い倉敷芸術科学大学との連携の下、施設の管理運営に関し教育研究施設以外の施設についての運営業務を行いました。

- ・屋外レジャープール運営事業
- ・アイスアリーナ運営事業
- ・ファスティングヘルス事業（断食道場）

- ・ラドン温浴施設
- ・レストラン事業
- ・スポーツ施設管理事業（テニス、フットサル、スカッシュ等）
- ・その他事業

■株式会社SID創研

平成23年12月、
加計学園出資会社とし



て株式会社SID創研（Space(空間)Intellect(知性)Dream(夢))を設立、平成24年度より本格的に運営いたします。

国際交流関係

本学園はグローバル化する国際社会において、諸外国との親密な連携が人材育成には不可欠であると考え、早くから国際性の涵養を教育理念の一つに掲げ、様々な取り組みを続けています。

本年度についても以下のような取り組みを実施いたしました。

■フェアウエルパーティー

7月15日、教育交流協定を締結している諸外国の学生等を招待したフェアウエルパーティーを、岡山理科大学スカイテラスにて開催しました。

訪日文化研修団17名を含む約500名が参加し、中国、韓国、ネパール、スリランカ、ベトナムの屋台を楽しみました。

■教育交流協定調印式

9月16日(金)、理大11号館ラウンジにおいて、タイの泰日工業大学と教育交流協定に調印しました。加計理事長、クリサダ・ヴィサヴァティノン学長が、安倍晋三元首相立会のもとで協定書に署名をしました。

■第一回加計学園杯日本語弁論国際大会

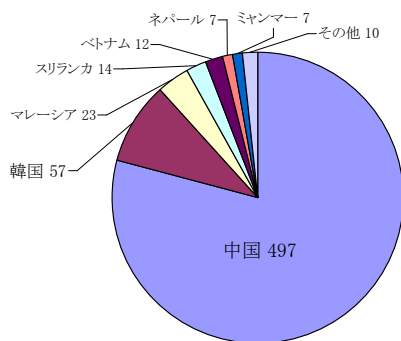
7カ国計9会場にて開催し、予選を勝ち抜いた9名の出場者が熱弁を奮いました。

■海外支局長会議

春期は4月6～7日、秋期は11月21日の2回開催しました。春期は入学式に参加し、秋期は勉強会・報告会を開催、留学生弁論大会に参加するなど、海外支局長同士の連携を深めました。

■国別留学生内訳

(平成23年5月1日現在)



総数：627 (単位：人)

■平成23年度教育交流協定を締結校

- 5月3日 コンゴ民主共和国：高等技術大学
- 12月19日 韓国：木洞高等学校
- 2月17日 中国：安徽外国語学院

■教育交流協定校との交流プログラム

国名	計画	実行
アメリカ	ライト大学仕事体験生4名	4～3月
韓国	湖西大学単位互換履修生3名	4～3月
台湾	受入：致理技術学院科目等履修生 岡山理科大学へ4名、倉敷芸術科学大学へ2名	4～3月
台湾	受入：致理技術学院学生訪日研修団21名	5.23～6.1
アメリカ	受入：フィンドリー大学学生訪日研修団来学5名	6.25～7.19
ブラジル	受入：パナマ連邦大学・パナマカカ大学学生訪日研修団12名	6.26～7.21
中国	受入：黒龍江農業技術学院学長一行2名	7.4～7.8
ブラジル	派遣：パナマ連邦大学・パナマカカ大学へ学生研修団5名	8.7～8.31
イギリス	派遣：カンダラント大学へ学生研修団7名	8.7～8.29
韓国	受入：木洞高校訪日研修団29名	8.18～8.19
台湾	派遣：南台科技大学へ学生研修団計3名	8.21～9.3
タイ	受入：泰日工業大学学長	9.5
中国	受入：無錫市堰橋中学校長一行4名訪日団	11.7～11.9
中国	南京田家炳高級中学学生研修団35名	11.25～12.1
中国	受入：無錫市堰橋中学学生研修団28名	1.7～1.13
韓国	受入：全南女子商業高校18名学生研修団	2.3～2.4
韓国	受入：正明高校27名学生研修団	2.15～2.20
韓国	受入：木洞高校37名学生研修団	2.20～2.23

■海外協定校

(平成24年3月31日現在)

国名	教育交流協定校	校数
中国	南開大学、北京科技大学、雲南大学、中山大学、河南科技大学、東北師範大学、東北師範大学人文学院、中国管理軟件学院、北京城市学院、北京市実美職業学校、北京市求实職業学校、黒龍江中医薬大学、安徽外国語学院 (留学生募集に関する提携校：内モンゴ智力引進外語専修学院、北京平成日本語学校、成都瀨川日本語学校、四川外国語学院国際教育学院、西南交通大学外語学院国際項目部、深圳職業技術学院、明正日本語学校、南京卓越日本語専修学院、無錫運河実験中学校、長沙明照日本語専修学院、吉林動画学院他)	13校 (23校)
韓国	慶一学園、金剛学園(永同大学、亨硯高校)、鶴山学園(東ソウル大学)、金龍学園(徳園女子高校、徳園芸術高校)、桂林学園(正明高校)、清錫学園(清州大学)、純心教育財団(純心高校)、湖西学園(湖西大学)、江原大学、金泉大学、大田保健大学、韓国防災協会、全南女子商業高等学校、木洞高校	14校
台湾	大華技術学院、明新科技大学、南台科技大学、稲江科技暨管理学院、稲江高級商業職業学校、金甌女子高級中学、致理技術学院、海山高級工業職業学校、治平高級中学、財団法人崇右技術学院	10校
アメリカ	ライト大学、ハワイ大学、フィンドリー大学、シェネンドーア大学、グアム大学	5校
イギリス	サンダーランド大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所、ダービー大学	4校
ブラジル	パラナ・カトリカ大学、パラナ連邦大学、バンデイランテス高校	3校
スリランカ	ワヤンバ・ロイヤルカレッジ、マリヤデワ・カレッジ、マリヤデワ・バーリカウィッダヤーラヤ、マヒンダ・カレッジ・ゴール	4校
オーストリア	ヨハネス・ケプラー大学、リンツ工科造形芸術大学	2校
シンガポール	ニー・アン・ポリテクニク、シンガポール・ポリテクニク	2校
ベルギー	ブリュッセル自由大学、ゲント王立美術アカデミー	2校
タイ	泰日工業大学、パトゥムワン・デモンストレーション・スクール	2校
フランス	リヨンI大学	1校
カナダ	モホーク大学	1校
フィリピン	フィリピン国立大学ロスバニョス校	1校
コスタリカ	コスタリカナショナル大学	1校
オーストラリア	アニマルインダストリーズリソースセンター	1校
コンゴ民主共和国	高等技術大学	1校
マレーシア	マラ工科大学医学部	1校
ベトナム	ひかり日本語学校	1校

人事・組織

■人事評価プロジェクト

個人の目標や評価基準を設定し、学園が掲げる戦略や目標に向かって進んでいくため、法人総務部に人事評価プロジェクトを設置しました。

職員は「進化する自己点検・勤務考課」を実施したことで、個人・各部署のレベルアップを図るきっかけになりました。

教員についても来年度より実施いたします。

■中学・高校事務部

中高一貫教育に伴い、中学校、高等学校、中高入試広報室事務を中学・高校事務部に統一し、横断的な業務が行えるようになりました。

■加計学園理事・監事・評議員概況

区分	定数	常勤	非常勤	計
理事	9 ～ 13	6	3	9
監事	2		2	2
評議員	23 ～ 32	27	4	31

(平成23年5月1日現在)

4月30日 加計美也子理事辞任

5月 1日 加計役理事就任

6月 1日 加計役副理事長就任

6月 1日 北村良人理事就任

9月30日 添田喬理事辞任

10月1日 唐木英明理事就任

学園の概況

■学園の沿革（抜粋）

- 昭和30年 4月 加計学園の出発点ともなった広島英数学館を、加計勉が創立
- 昭和36年 9月 **学校法人加計学園**認可、理事長に加計勉就任、岡山電機工業高等学校設置認可
- 昭和37年 4月 **岡山電機工業高等学校**開校（全日制） 初代校長に神崎栄一郎就任
- 昭和39年 1月 岡山理科大学設置認可
- 2月 岡山理科大学設置認可にともない、岡山電機工業高等学校を**岡山理科大学附属高等学校**と改称
- 4月 **岡山理科大学**開学（理学部） 初代学長に加計勉就任
- 昭和42年 4月 岡山理科大学附属高等学校第2代校長として、内藤一人就任
- 昭和44年12月 真庭郡川上村に岡山理科大学蒜山研究所、蒜山学舎を開設
- 昭和48年10月 学校法人加計学園の所在地が岡山市の住居表示変更により、岡山市理大町と町名変更
- 昭和49年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科修士課程を設置
- 岡山理科大学附属高等学校第3代校長として中尾寿夫就任
- 昭和50年 4月 岡山高等建築専門学院設置認可
- 5月 **岡山高等建築専門学院**開校（建築学科夜間部定時制） 初代校長に中尾寿夫就任
- 昭和51年 4月 岡山高等建築専門学院、専修学校法施行により**岡山高等建築専門学校**と改称
- 昭和53年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科に博士課程（後期）を設置
- 昭和55年 4月 岡山理科大学第2代学長に、奥田毅就任
- 岡山理科大学附属高等学校第4代校長として、松本卓三就任
- 岡山高等建築専門学校昼間部を増設、第2代校長として片山誠二就任
- 7月 寄附行為変更により総長制度認可、初代総長に加計勉就任
- 昭和59年 4月 岡山理科大学第3代学長に、黒谷寿雄就任
- 昭和61年 4月 岡山理科大学工学部設置
- 岡山理科大学附属高等学校第5代校長として、三宅寛就任
- 岡山高等建築専門学校を**岡山理科大学専門学校**と改称
- 平成 2年 4月 岡山理科大学第4代学長に、加計勉就任
- 岡山理科大学大学院の理学研究科を改組し、工学研究科を設置
- 平成 4年 1月 岡山理科大学附属高等学校第6代校長として、加計晃太郎就任
- 4月 岡山理科大学附属高等学校第7代校長として、渡辺己巳生就任
- 平成 6年12月 倉敷芸術科学大学設置認可 初代学長に谷口澄夫就任
- 平成 7年 4月 **倉敷芸術科学大学**開学
- 平成 9年 4月 岡山理科大学総合情報学部を増設
- 12月 玉野看護福祉総合専門学校設置認可
- 平成10年 4月 **玉野看護福祉総合専門学校**を開校 初代校長に金政泰弘就任
- 岡山理科大学附属高等学校第8代校長に三木輝知就任
- 岡山理科大学専門学校第3代校長に村上侑就任
- 平成11年 4月 倉敷芸術科学大学第2代学長に土井章就任
- 倉敷芸術科学大学大学院開設
- 平成12年 4月 倉敷芸術科学大学教養学部を国際教養学部に変更

- 平成12年 4月 岡山理科大学附属高等学校通信制課程普通科を設置
- 平成13年 1月 学校法人加計学園第2代理事長・総長に加計晃太郎就任
- 4月 岡山理科大学大学院修士課程に総合情報研究科設置
倉敷芸術科学大学大学院芸術研究科に博士（後期）課程設置
玉野看護福祉総合専門学校を、**玉野総合医療専門学校**に名称変更
岡山理科大学第5代学長として、山村泰道就任
- 9月 岡山理科大学附属中学校設置認可
- 平成14年 4月 倉敷芸術科学大学大学院（通信制）設置
岡山理科大学附属高等学校第9代校長として、北尾正幸就任
岡山理科大学専門学校第4代校長として、逢坂一正就任
岡山理科大学附属中学校開校 初代校長として、善木道雄就任
- 平成15年 4月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部（通信教育課程）、国際教養学部（通信教育課程）
を設置
- 11月 千葉科学大学設置認可
- 平成16年 3月 倉敷芸術科学大学専門学校設置認可
- 4月 岡山理科大学第6代学長に宮垣嘉也就任
倉敷芸術科学大学生命科学部を設置
倉敷芸術科学大学国際教養学部募集停止
倉敷芸術科学大学国際教養学部（通信教育課程）募集停止
千葉科学大学開学 初代学長に平野敏右就任
倉敷芸術科学大学専門学校開校 初代校長に岡本繁通就任
- 平成17年 4月 倉敷芸術科学大学第3代学長に添田喬就任
岡山理科大学附属高等学校第10代校長に橋爪道彦就任
岡山理科大学附属中学校第2代校長に新倉正和就任
岡山理科大学専門学校第5代校長に圓堂稔就任
玉野総合医療専門学校第2代校長に岡田茂就任
- 平成19年 4月 倉敷芸術科学大学専門学校第2代校長に伊藤敏夫就任
- 平成20年 4月 岡山理科大学第7代学長に波田善夫就任
千葉科学大学大学院薬科学研究科、危機管理学研究科設置
倉敷芸術科学大学専門学校を**倉敷 食と器 専門学校**に名称変更
- 平成21年 4月 岡山理科大学専門学校第6代校長に小林正文就任
- 平成22年 3月 倉敷芸術科学大学国際教養学部を廃止
- 平成22年 4月 千葉科学大学第2代学長に赤木靖春就任
玉野総合医療専門学校第3代校長に高井研一就任
倉敷 食と器 専門学校第3代校長に川上雅之就任
千葉科学大学大学院薬科学研究科博士課程（後期）、危機管理学研究科博士課程（後期）設置
- 平成23年 4月 倉敷 食と器 専門学校第4代校長に亀井秀人就任
岡山理科大学大学院工学研究科生体医工学専攻設置
岡山理科大学大学院工学研究科建築学専攻設置
岡山理科大学工学部建築学科設置
岡山理科大学総合情報学部建築学科募集停止
倉敷芸術科学大学産業科学技術学部経営情報学科設置
倉敷芸術科学大学産業科学技術学部IT科学科募集停止
倉敷芸術科学大学産業科学技術学部起業経営学科募集停止

平成23年 4月 倉敷芸術科学大学生命科学部健康医療学科設置
岡山理科大学大学院理学研究科動物学専攻設置届出
岡山理科大学生物地球学部生物地球学科設置届出
千葉科学大学大学院薬学研究科薬学専攻設置届出
千葉科学大学危機管理学部環境危機管理学科設置届出
千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科設置届出
平成23年10月 倉敷芸術科学大学第4代学長に唐木英明就任
11月 学校法人加計学園50周年記念式典挙行

■設置校概況

平成23年5月1日現在

区 分	合計		教員	職員	計
	定員	現員			
岡山理科大学 (岡山市北区理大町1-1)	5,404	5,587	274	190	464
大学院	384	312		(本部) 77 (理大) 113	
理学研究科	191	139			
工学研究科	141	120			
総合情報研究科	52	53			
学部	5,020	5,275			
理 学 部	2,065	2,337			
工 学 部	1,805	1,801			
総合情報学部	1,150	1,137			
倉敷芸術科学大学 (倉敷市連島町西之浦2640)	2,467	1,784	117	61	178
大学院	126	63			
芸術研究科	52	27			
産業科学技術研究科	44	22			
人間文化研究科	30	14			
学部	1,721	1,695			
芸術学部	410	405			
産業科学技術学部	425	336			
生命科学部	886	954			
大学院 (通信制)	120	14			
芸術研究科	20	4			
産業科学技術研究科	40	0			
人間文化研究科	60	10			
学部 (通信教育課程)	500	12			
産業科学技術学部	500	12			
千葉科学大学 (千葉県銚子市潮見町3)	2,276	1,751	106	47	153
大学院	46	46			
薬科学研究科	30	25			
危機管理学研究科	16	21			
学部	2,230	1,705			
薬学部	1,175	824			
危機管理学部	1,055	881			
岡山理科大学附属高等学校 (岡山市北区理大町1-1)	2,100	1,497	76	19	95
全日制	1,500	1,237			
通信制(1~3年定員:600名)	600	260			
岡山理科大学附属中学校 (岡山市北区理大町1-1)	240	160	15	2	17
岡山理科大学専門学校 (岡山市北区半田町8-3)	460	400	12	13	25
工業専門課程(建築)	120	93			
商業実務専門課程(映像情報)	0	0			
文化・教養専門課程(動物看護, トリミング, ドッグ, 777)	340	307			
文化・教養一般課程(トリミング, ドッグ, 777)	0	0			
玉野総合医療専門学校 (玉野市築港1丁目1-20)	560	472	31	8	39
医療専門課程(保健看護, 理学療法, 作業療法)	480	415			
教育・社会福祉専門課程(介護福祉)	80	57			
倉敷 食と器 専門学校 (倉敷市連島町西之浦2640)	200	96	6	6	12
衛生専門課程(高度調理, 高度製菓)	160	89			
文化・教養専門課程(器デザイン)	40	7			
合 計	13,707	11,747	637	346	983

※別科、専攻科等除く

■事務組織図（平成23年5月1日）



財務関係

■資金収支計算書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	15,219,085,820
手数料収入	273,077,025
寄付金収入	295,332,741
補助金収入	2,828,340,620
資産運用収入	182,974,286
資産売却収入	200,000,000
事業収入	159,973,156
雑収入	542,984,250
借入金等収入	1,420,000
前受金収入	2,316,895,150
その他の収入	1,375,802,230
資金収入調整勘定	△ 3,120,964,725
前年度繰越支払資金	20,300,346,851
計	40,575,267,404

支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費支出	11,495,400,071
教育研究経費支出	4,045,001,600
管理経費支出	1,436,222,470
借入金等利息支出	154,698,204
借入金等返済支出	978,033,400
施設関係支出	722,407,798
設備関係支出	706,734,145
資産運用支出	272,762,877
その他の支出	1,092,532,235
資金支出調整勘定	△ 1,344,978,549
次年度繰越支払資金	21,016,453,153
計	40,575,267,404

■消費収支計算書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

消費収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金	15,219,085,820
手数料	273,077,025
寄付金	345,491,923
補助金	2,828,340,620
資産運用収入	182,974,286
事業収入	153,298,841
雑収入	542,984,250
帰属収入合計	19,545,252,765
基本金組入額合計	△ 1,207,947,705
消費収入の部合計	18,337,305,060

消費支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費	13,963,837,865
教育研究経費	5,943,896,834
管理経費	1,963,248,708
借入金等利息	154,698,204
資産処分差額	88,681,128
徴収不能引当金繰入額等	24,385,692
消費支出の部合計	22,138,748,431
当年度消費支出超過額	3,801,443,371
前年度繰越消費支出超過額	9,323,384,496
翌年度繰越消費支出超過額	13,124,827,867

※人件費に退職給与引当金特別繰入額(2,468,437,794円)を計上しています

■退職給与引当金特別繰入額の計上

「退職給与引当金の計上等に係る会計方針の統一について」(平成23年2月17日文科科学省通知)が出されたことに伴い、退職給与引当金の計上基準を変更し平成23年度から退職金の期末要支給額の100%を計上することとしたため、平成23年度消費収支計算書の人件費の「退職給与引当金特別繰入額」が増額計上となりました。

■貸借対照表（平成24年3月31日）

資産の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定資産	59,904,425,499
有形固定資産	55,132,505,016
その他の固定資産	4,771,920,483
流動資産	22,627,232,185
資産の部合計	82,531,657,684

負債の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定負債	13,199,640,509
流動負債	4,608,490,924
負債の部合計	17,808,131,433

基本金の部 (単位：円)

科 目	金 額
基本金の部合計	77,848,354,118

消費収支差額の部 (単位：円)

科 目	金 額
翌年度繰越消費支出超過額	△ 13,124,827,867
消費収支差額の部合計	△ 13,124,827,867
科 目	金 額
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	82,531,657,684

■財産目録（平成24年3月31日）

(単位：円)

科 目	金 額
一資産額	
(一) 基本財産	59,705,849,068
1. 土地	15,851,455,923
借地権	388,140,000
2. 建物	26,764,391,791
(1)校舎	20,988,591,836
(2)図書館	380,295,164
(3)体育館	2,492,847,469
(4)寄宿舎	433,147,903
(5)倉庫	22,532,276
(6)その他	2,446,977,143
3. 建設仮勘定	0
4. 構築物	1,755,620,578
5. 図書	6,641,732,898
6. 教具・校具・備品	4,104,221,666
7. 車両運搬具	15,082,160
8. 積立金	1,985,204,052
9. 特定資産	2,200,000,000
(二) 運用財産	22,825,808,616
1. 預金、現金	21,016,453,153
2. 出資金	64,859,401
3. 有価証券	760,609,833
4. 未収金	743,758,192
5. 仮払金	8,613,152
6. 差入保証金	133,717,030
7. 前払金	95,631,254
8. 貯蔵品	2,166,601
合 計	82,531,657,684
二負債額	
1. 固定負債	13,199,640,509
(1)長期借入金	9,341,609,300
(2)学校債	6,450,000
(3)退職給与引当金	3,851,581,209
2. 流動負債	4,608,490,924
(1)短期借入金	515,418,400
(2)学校債	2,110,000
(3)未払金	1,244,380,243
(4)前受金	2,316,895,150
(5)預り金	514,301,760
(6)仮受金	15,385,371
合 計	17,808,131,433

■財務比率

消費収支計算書及び貸借対照表に基づく財務比率について、下表で本学の経年比率を示しました。

分類	区 分		20年度	21年度	22年度	23年度
	比 率	算式 (×100)				
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総 資 金}}$	△7.9%	△9.5%	△11.2%	△15.9%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基本金要組入額}}$	87.0%	86.7%	87.5%	88.5%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$	92.2%	92.0%	90.7%	92.6%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	78.5%	78.3%	77.3%	76.9%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	553.7%	473.1%	564.5%	491.0%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	837.6%	788.5%	863.1%	907.1%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	18.7%	19.6%	18.8%	21.6%
	負債率	$\frac{\text{総負債-前受金}}{\text{総 資 産}}$	15.9%	16.5%	15.9%	18.8%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金}}{\text{基本金要組入額}}$	79.3%	77.5%	76.9%	73.6%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	62.6%	64.1%	60.5%	71.4%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{消 費 支 出}}$	29.8%	29.7%	30.7%	26.8%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	9.6%	9.2%	9.3%	10.0%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	105.6%	106.2%	102.6%	113.3%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	131.3%	133.8%	127.3%	145.5%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	80.5%	79.4%	80.7%	77.9%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	1.0%	0.9%	0.7%	1.8%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	12.7%	14.0%	14.0%	14.5%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.9%	1.4%	4.2%	6.2%

■国庫補助金等

設置校名	①	②	③	(単位：千円)		
	経常費補助金	大型機器補助金	G P等選定事業	その他国庫補助金	地方公共団体補助金	合計
岡山理科大学	1,037,501	45,234	96,243	1,641	530	1,181,149
倉敷芸術科学大学	447,782		35,225		4,553	487,560
千葉科学大学	497,297	2,475	27,021	168,587	119	695,499
岡山理科大学附属高等学校				11,325	369,562	380,887
岡山理科大学附属中学校					56,635	56,635
岡山理科大学専門学校					341	341
玉野総合医療専門学校					26,084	26,084
倉敷食と器専門学校					186	186
合計	1,982,580	47,709	158,489	181,553	458,010	2,828,341

①経常費補助金・・・私立大学等経常費補助金（一般補助、特別補助）

②大型機器補助金・・・私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））及び私立大学等研究設備整備費補助金（私立大学等研究設備等整備費）

③G P等選定事業・・・大学改革推進等補助金（戦略G P、教育G P等）、科学技術総合推進費補助金等、文部科学省が選定し、支援を行う補助事業

■受託研究・共同研究・科学研究費補助金

設置校等名	受託研究	共同研究	科学研究費補助金	
			件数	補助金額
岡山理科大学	31 件	25 件	53 件	109,640 千円
理学部	14	8	16	30,290
工学部	12	15	26	52,650
総合情報学部	4	1	10	26,000
附属施設	1	1	0	0
その他			1	700
倉敷芸術科学大学	7	9	11	11,830
芸術学部	1	1	3	2,600
産業科学技術学部	0	6	3	3,250
生命科学部	6	2	5	5,980
千葉科学大学	6	2	13	21,940
薬学部	5	1	8	17,650
危機管理学部	1	1	5	4,290
岡山理科大学専門学校	2			
合計	46	36	77	143,410

平成23年度 事業報告

岡山理科大学

理学、工学、情報科学のキーを駆使し、あらゆる学際領域を探索。地球を視野に高度なサイエンスを創造する。



総合情報学部・生物地球システム学科は、単独学部として拡大・発展させるべく、届出を行いました。これ

に関連し、他の学科等についても改組を検討し、定員の移動などの改善計画を検討しました。

キャリア教育が義務化されるなど、教育の充実が求められており、これを実現するために教育開発支援機構を平成22年度より設置し、これを有効に機能させ、カリキュラムの改善、FDのレベルアップなどを行いました。

終了した科学Tryアングル岡山、科学ボランティアリーダー養成プロジェクトについては、今後とも実施できる体制を構築しました。継続実施中の補助事業に関しては、効率的・効果的な運営を実現しました。また、積極的に競争的外部資金の獲得を目指しました。大型機器の導入整備など、研究環境の充実を行いました。

研究・教育環境改善のため、大学創設時の建物などの建て替え、これに関連する学科スペースの再配置を計画しました。また、中期的な建物管理計画を立案し、将来の発展を確固たるものとししました。

岡山理科大学 学長 波田 善夫

教学の充実

■キャリア教育の充実

本学においては、文書表現法、プレゼンテーション、企業情報特論、インターンシップなどのキャリア支援科目を選択科目で開講してはいますが、平成23年度からキャリア支援科目の1科目を卒業までに修得すべき選択必修科目にしました。また、キャリア教育担当の教員を採用し、体系的な教育が出来るようにしました。

■教育開発支援機構に科学ボランティアセンターの設置

平成20年度に選定された2つの文部科学省の補助事業（3年間）が終了したことに伴い、これらの事業を発展継続するために教育開発支援機構に科学ボランティアセンターを設置しました。

科学ボランティアリーダーの養成のため、本学学生が科学・工作教室の講師等として児童生徒の理工系離れの克服および、市民の科学技術リテラシー向上に積極的に貢献する取り組み、また、県内3大学、1高専が協力してそれぞれの特徴と教育研究資源を集結して、科学による地域の活性化に挑戦する取り組みを行いました。

■日本マレーシア高等教育大学連合プログラム

日本マレーシア高等教育大学連合プログラム（JAD）（3年次編入）による留学生を積極的に

受け入れると共に、JADプログラム留学生を受け入れるため、大学院生をマレーシアに派遣しました。

■自己点検評価

教育研究水準の向上を目的とする自己点検評価を毎年実施し、その結果を踏まえ平成25年度に第三者評価を受ける準備を進めました。

■教員免許更新講習

免許更新制の実施に伴い、より充実した内容の教員免許更新講習を開設しました。

受付期間：平成23年5月9日(9:00)

～6月10日(17:00)

受付方法：Webによる受付

講習期間：

学内講習：

平成23年7月31日～8月4日

(受講者数135名)

屋久島講習：

平成23年8月26日～8月28日

(受講者数24名)

学内講習科目：

必修科目「教育の最新事情」

(受講者数67名)

選択科目「教師のための理科教育」

(受講者数22名 理科)

「教師のための数学」

(受講者数31名 数学)

「教師のための先端科学技術体験」

(受講者数15名 技術・工業)

屋久島講習科目：

選択科目「屋久島の自然観察実習」

(受講者数24名 理科・他)

■博物館学芸員養成課程の充実

博物館法施行規則の改正及び博物館実習ガイドラインの策定に伴って、平成24年度からの改正点に対応するため博物館に関する科目を見直し、より充実した内容に改善しました。

また、法改正に伴い全学的に博物館学芸員養成課程の再申請を行いました。

文部科学省選定事業

■ものづくり教育と地域連携による就業力育成

平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に工学部が申請した「ものづくり教育と地域連携による就業力育成」が選定されました。

今年が2年目となり、工学部教員や技術コーディネーターが、①ものづくり就業力育成科目の充実と体系化、②技術者バンクの構築による地域産官学連携、③キャリアポートフォリオ作成システムによる学生主体学習に取り組みました。

■おokayama医療機器開発プロフェッショナル

平成20年度「科学技術振興調整費」で選定された同プロジェクトは



平成23年度から「科学技術戦略推進費」となりました。

工学部生体医工学科を中心とし、医療機器開発のスペシャリストを養成するプログラムで、昨年度中間報告ではA評価を受けました。

医療機器の製品化には安全性試験、動物実験、臨床実験、製造承認申請業務など特有の開発ステージがあり、各業務に精通したスペシャリストが必要です。医療機器開発に意欲のある地域中小企業の開発者を対象に必要な知識・技能を教授し、医療機器産業の創出・育成を産業政策の柱とする岡山県と協力して、地域の新産業創出に不可欠な人材を5年間で45人の養成を目標とする取り組みです。本年度は補助期間5年計画の4年目の取り組みを行いました。

■グリーン元素科学

平成21年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に「グリーン元素科学」が採択されました。



文部科学省は国の第3期科学技術基本計画の一環として「元素戦略プロジェクト」を進めており、「環境問題と希少元素資源の枯渇に対処するための研究」というテーマのもとに共同で研究するための組織が「グリーン元素科学」です。

元素戦略とは、元素の特性を生かして、豊富で無害な元素を組み合わせ、希少元素の代替物質を作り出す研究で、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（研究拠点を形成する研究）の支援のもと、本学の関連分野の研究者が協力して研究するために、共同研究は「汎用元素による新機能創出」、「元素のハイブリッド化による新物質創出」、「生体物質を利用した省元素資源」の3つの研究テーマに分かれています。本年度は5年計画の3年目の研究を行いました。

■「岡山オルガノン」の構築

平成21年度「戦略的大学連携支援事業」に『「岡山オルガノン」の構築』が採択されました。



大学コンソーシアム岡山の提案により、本学を代表校として岡山県内の15大学が連携し、学士力の向上、社会人基礎力の向上、地域発信力の向上を目指した取組みです。

単位互換を活用した教養教育の充実、実践的キャリア教育の共同実施、地域と一体となった人材育成を行うものとなっています。eラーニングシステムなど各大学の特色を共有することで地域全体としての教育力を向上することが期待されます。本年度は3年計画の最終年の取組みを行いました。

■鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

平成23年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に理学部が申請した「鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史」が採択されました。

地球、惑星の過去の環境変動を調べることは、その変動の中をどのように人類や生物が生き抜き、

進化してきたか、という我々の過去を知ることで、このことは、将来における地球の環境変化を予測し、いかに対応していくべきであるかを知るためにも重要な課題です。

本プロジェクトでは、鉱物のルミネッセンス現象や電子スピン共鳴といった物性物理学的な特性や、微量元素の同位体比に注目して、それらのイベントの年代測定を進めると共に、これらの測定によってはじめて検出できる地球惑星の環境変動、イベントを検出することを目的にしています。本年度は5年計画の1年目の取組みを行いました。

産官学連携

■外部資金の獲得

科学研究費補助金等の競争的研究費、共同研究や受託研究等の外部研究資金の獲得を推進しました。外部資金に関する情報収集に努め、説明会等を開催し、外部資金の獲得を目指しました。

■公的研究資金不正使用防止

公的研究資金の不正使用防止のため、ガイドラインの作成や研修会の実施や物品検収を行いました。

■知的財産化

1) 発明の知的財産化

研究者の発明を知的財産化することを目指し、職務発明委員会等を通じて職務発明の発掘に努めました。

2) 特許セミナー

特許セミナーを年数回開催し、研究者および学生が研究した成果の知的財産化を推進しました。

■地域産業界との交流

地域産業界との交流を推進しました。

1. 岡山県主催の「100研究室訪問」に協力

- し、研究室及び研究機器等を外部へ公開
2. 岡山県（産学官連携推進会議）が主催する「100社訪問」に参加
 3. ㈱日本政策金融公庫岡山支店中小企業事業主催のビジネス交流会へ参加
 4. おかやま信用金庫、備前信用金庫主催（新規）のビジネス交流会参加
 5. 岡山市（岡山工業会）のビジネス交流会参加
 6. 岡山市商工会議所のビジネス交流会参加
 7. トマト銀行をはじめ協定を締結した団体との交流の実施
 8. 各種団体・企業において本学のシーズや産官学連携活動の広報活動

■委託公開講座

岡山県からの委託公開講座（大人のための楽しい科学実験・自然観察 全8回）を開講しました。

■外部団体の役員等としての参画

岡山県、および地方公共団体の20以上の委員会等に継続して役員として参画し、各委員会を通じて、産業界や官公庁との連携により、社会貢献に努めました。

■研究成果の社会への発表について

1. 発表会の開催と参加

「OUSフォーラム2011」を11月に岡山市内で開催しました。著名な講師を招聘し、講演会や本学研究者のシーズ発表等を行いました。その他、東京等で開催される研究発表会に研究シーズの公開を行いました。

- 1) 「OUSフォーラム2011の開催」
(11月22日：岡山)
- 2) JST科学技術振興機構「新技術説明会」での発表
(7月：東京)
- 3) 「イノベーションジャパン」での発表
(9月：東京)
- 4) 「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」
(9月1日：岡山)

2. 広報活動の実施

本学の研究成果を社会に周知することを目的に冊子「リエゾン」の第3号を発行し、広く配布しました。またホームページの運営等を通じ積極的に、研究内容の情報発信に努めました。

■岡山天文博物館との教育連携協定

10月28日、浅口市岡山天文博物館と天文学分野の教育連携協定を締結しました。この協定により、本学の学生が博物館スタッフとして研修したり、博物館職員が大学で講義を行うなど相互協力を行えるようになりました。

23年度新設学科・コース

■工学部建築学科 開設

総合情報学部にあった建築学科を平成23年4月より工学部の建築学科として新たに開設しました。

建築学科は建築工学コースと住デザインコースの選択制とし、学生の興味と適性を重視した教育を行います。具体的には、安心・安全かつ快適な建築と町づくりのために、倫理に則って行動し社会貢献のできる人材の養成、地域の社会的ニーズに応えることのできる人材の養成、ユニバーサルデザインなどを通して高齢者社会等に安心と安全を提供できる人材の養成、構造設計等を通して安全な建築を提供する人材の養成、省エネルギー等の地球環境を考え快適で環境負荷の少ない構造物を造ることのできる人材の養成を目指します。特に、新たな文化や技術を生み出す創造性豊かな能力の育成を重視します。

■工学研究科建築学専攻 開設

工学部建築学科を基礎とする、大学院工学研究科建築学専攻（修士）を開設しました。

建築学の基本となる「計画学」「構造工学」「環境設備工学」の3つの分野において、先進的

な企画・設計・開発・運用に挑戦する能力を伴った高度な専門性を持つアーキテクトやエンジニア及び研究・開発者の育成、また、1つの分野に特化せず全般に渡り幅広い知識を有し、新たな建築方法の開発や新しい建築材料の生産・開発を目指す実践的で高度なエンジニアや管理者、研究者の育成を目指します。

■工学研究科生体医工学専攻 開設

工学部生体医工学科を基礎とする大学院工学研究科生体医工学専攻（修士）を開設しました。

生体医工学がカバーする主要な3分野（1）遺伝子・生物学・人間環境工学、（2）バイオメカニクス・生体材料、（3）電気・電子・情報に関する高度な専門知識と工学的研究開発手法を習得させ、関連する基礎研究や医療機器の研究開発ができる研究者や専門技術者の育成、生体医工学分野の総合的な工学的知識を有し臨床医学分野において診断・治療方針の策定に貢献できる臨床工学技術の研究者や専門技術者の育成を目指します。

■理学部化学科 コース制導入

理学部化学科に、化学やバイオの力で生活に役立つ物質を作ることを目的とした「バイオ有機薬品コース」、環境に携わるスペシャリストを育てる「環境分析コース」、人類のエネルギー問題を化学の力で解決することをめざす「新エネルギーコース」の3コースを設置しました。

申請・届出関係

■生物地球学部 届出

総合情報学部にある生物地球システム学科を、生物地球学部（入学定員 100名）に改組する設置届を提出しました。（H23. 4. 26文部科学省届出）

生物地球学部生物地球学科は、生物や地球・宇宙に関して多様な興味を持つ学生に対して、①植物・園芸学、②動物・昆虫学、③地理・考古学、

④地球・気象学、⑤天文学の5コースを設け幅広い教育を行います。教育課程は、従来の積上げ型教育編成ではなく、野外調査実習などの実験実習科目を教育課程の中心に据え、豊かなフィールドワーク経験を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力、計画性、創造性、柔軟性などのジェネリックスキルの育成を目指します。さらに個々の分野においても高い専門知識・技能を修得させることで多様化した現代社会のニーズに応える人材の育成を目指しています。

なお、既設の総合情報学部生物地球システム学科は、平成24年度より募集停止とし、在学生全員の卒業をもって廃止となります。

■理学研究科動物学専攻 届出

理学部動物学科を基礎とする大学院理学研究科動物学専攻（修士課程）設置届を提出しました。

（H23. 4. 26文部科学省届出）

動物学専攻では、理学部動物学科の4年間の教育を基礎とし、野生動物を対象とした国際的なレベルの教育研究を行います。また、人間の健康や生存に深く関わる哺乳動物を飼養し、その特性を明らかにすることによって、「種の保全」や「人類の生存」に繋がる教育研究を行っていきます。これらの教育研究を通じ、動物学に関する高度な学識を身につけることで、地球環境の保全と人間の健康と安全を守り、持続可能な社会を実現していく、広い視野をもつ人材の育成を目指します。

■教免課程認定申請

届出設置の生物地球学部生物地球学科、理学研究科動物学専攻で教員免許取得ができるよう、教免の課程認定申請を行いました。

生物地球学部生物地球学科

中学校教諭一種免許状（理科）

高等学校教諭一種免許状（理科）

理学研究科動物学専攻

中学校教諭専修免許状（理科）

高等学校教諭専修免許状（理科）

■入学定員の変更（変更分のみ）

《学部》

生物地球学部生物地球学科（定員100名、内30名定員増）設置に伴い、以下のとおり入学定員を変更しました。これによって大学全体の収容定員は、生物地球学部生物地球学科が完成年度を迎える平成27年度には5, 130名となります。

（H23. 3. 29収容定員増認可申請）

（H23. 6. 24認可）

総合情報学部

生物地球システム学科 70名→ 0名
（募集停止）

生物地球学部

生物地球学科 100名
（30名定員増）

《大学院》

理学研究科動物学専攻（定員4名）設置および総合情報研究科シミュレーション科学専攻の学生募集停止に伴い以下のとおり入学定員を変更しました。（H23. 4. 26文部科学省届出）

理学研究科

応用数学専攻 7名 → 6名（1名減）
応用物理学専攻 14名 → 13名（1名減）
総合理学専攻 13名 → 12名（1名減）
生物化学専攻 14名 → 13名（1名減）
動物学専攻 4名（新設）

工学研究科

知能機械工学専攻 7名 → 8名（1名増）

総合情報研究科

情報科学専攻 6名 → 7名（1名増）
生物地球システム専攻 6名 → 7名（1名増）
シミュレーション科学専攻 3名 → 0名（3名減）
（募集停止）

就職活動支援

■就職進路ガイダンス・各種セミナー

ガイダンスを3年次・修士1年次生に6回、4年次・修士2年次生に1回、計7回実施しました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー等を時期に応じて開催しました。

1年、2年次生の低学年に対するガイダンスも年次毎に数回行い、3年次生に行うガイダンスへスムーズに移行出来るようにしました。



■就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

就職筆記試験対策講座を実施しました。また、2、3年次生を対象に公務員試験対策講座を実施しました。就職筆記試験対策講座との整合性・学習内容の整理を行った上で開催し、企業希望者や公務員希望者に実状に即した情報を提供しました。

■合同企業説明会

学生が企業の採用担当者と面談する、学内合同企業説明会を開催しました。また、企業人事担当者や教職員との情報交換会である就職懇談会を岡山・東京・大阪・広島の各会場で開催しました。

■就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、vol. 0～4を発刊しました。各年次において、ガイダンスで活用・解説しながら、入学時から一貫した指導を行いました。

■就職・進路懇談会

4年次生、3年次生とその保護者を対象に「就職・進路懇談会」を開催しました。就職環境の現状、就職を含む進路、成績などについてゼミ担当教員、学生本人および保護者の3者で懇談しました。

■「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

就職部の取り組み「地方理工系大学における迅速で組織的な就職支援システムの構築」が文部科学省 平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択されました。

就職支援システムを中心とした、3年目の事業を計画・実行しました。

■中期戦略3年目 「成果訴求」ステージ

本学出身者の活躍を通し、教育・研究内容を広く知らしめました。「マーケットイン」の感覚に立ち、本学の魅力を再確認し、広報しました。

■関連高校との高大連携強化

生徒の夢を紡いで実現に導く高大連携のシステム作り、広報の視点からの貢献を試みました。

■県内唯一の理工系私立大学としての使命

中長期的な視点に立ち、一般市民や小中学生を対象としたセミナー・レクチャーを引き続き展開し、本学の地元での位置づけを確固たるものとなりました。

平成24年度入試

本学の入学者受入方針は、本学が持つ研究領域の学習を強く希望する受験生と、高度な研究をめざす受験生の確保です。平成24年度入試では早期の入試で本学への入学意識を固めた生徒への、入学前のアドバイス・教育をさらに強化しました。また、受験生の立場に立った、受験関係書類・入学関係書類の改訂も引き続き実施しました。

広報に関すること

■シンボルキャラクター

広報戦略のシンボルとなるキャラクター「たんQくん」、本学のコンセプトを表現するコミュニケーションシンボルとして広報活動に活用しました。



人事・組織

■事務組織の改組

教育組織の簡略化・効率化や学生サービス向上を図ると共に、キャリア教育が平成23年度から義務化されることに伴い、就職部をキャリアセンターに、学務部資格取得支援課を教育開発支援課に、図書館事務室の資料情報課と情報サービス課を統合し事務課へ改組しました。

主な行事

4月 3日	入学宣誓式
4月 4日 ～ 8日	新入生・在学生オリエンテーション
4月16日	就職進路懇談会
5月14日 ～15日	皐月祭
6月19日	オープンキャンパス
7月 7日	七夕エコナイト
7月26日 ～8月5日	定期試験
8月 6日 ～7日	オープンキャンパス
9月10日 ～11日 23日	教育進路懇談会（地方） 教育進路懇談会（本学）
9月15日	後期オリエンテーション
9月25日	オープンキャンパス
11月 3日	特別推薦入試 専門学科・総合学科特別推薦入試
11月12日 ～13日	推薦入試
11月19日	学園50周年記念行事
11月19日 ～23日	半田山祭（大学祭）
11月22日	OUSフォーラム
12月11日	加計学園推薦入試（スカシップ [®] 制）
1月14日 ～15日	大学入試センター試験
1月24日 ～2月8日	定期試験
1月30日 ～2月1日	一般入試前期SA・SAB方式
2月19日	一般入試前期SB・B1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成23年5月1日現在)

研究科・学部・学科名	入学定員	入学者数		収容定員		在学者数		秋期入学 ※	
		留学生	社会人	留学生	社会人	留学生	社会人		
大学院	理学研究科 (博士)	13	0		39	10	1	1	1
	理学研究科 (修士)	76	51		152	129		1	
	工学研究科 (博士)	5	2		15	10	6		
	工学研究科 (修士)	65	50	2	126	110	7		
	総合情報研究科 (博士)	2	0		6	5		2	
	総合情報研究科 (修士)	21	28		46	48	2	1	
大学院 計	182	131	2	384	312	16	5	1	
理学部	応用数学科	95	115		350	445			0
	化学科	70	90		295	279			
	応用物理学科	70	76		280	269			
	基礎理学科	75	101		300	331			
	生物化学科	85	103		340	420			
	臨床生命科学科	85	108		340	385			
	動物学科	40	58		160	208			
	計	520	651	0	2,065	2,337	0	0	
工学部	バイオ・応用化学科	75	90		300	372	1		0
	機械システム工学科	85	104	2	340	353	14	1	
	電気電子システム学科	70	66	1	280	262	12		
	情報工学科	85	111		340	368	4		
	知能機械工学科	55	55	4	235	205	25		
	生体医工学科	60	45	2	240	178	24	1	
	建築学科	70	63	4	70	63	4		
計	500	534	13	1,805	1,801	84	2		
総合情報学部	情報科学科	80	76		320	308	5		0
	コンピュータシミュレーション学科 (募集停止)		—	—	—	—	—	—	
	生物地球システム学科	70	99		280	302			
	社会情報学科	80	93	4	290	368	22		
	建築学科 (募集停止)		—	—	260	159	5		
計	230	268	4	1,150	1,137	32	0		
学部計	1,250	1,453	17	5,020	5,275	116	2	0	
総合計	1,432	1,584	19	5,404	5,587	132	7	1	
理学部理学専攻科	30	0		30	0				
教職特別課程	50	21		50	21				
留学生別科	60	7	7	60	7	7			

※ 秋期入学については、5月2日以降（平成23年5月2日～平成24年3月31日）に入学した者です（単位：人）

■卒業生数等一覧

(平成23年度)

区分		修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	4	1	1	1	100%	0	1	0	5
	修士	147		117	103	88%	9	15	5	5
学部		1,020		661	597	90%	130	186	94	167
教職特別課程		21		21	21	100%	0	0	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成24年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	新日本製鉄(株) 住友金属工業(株)	JFEスチール(株) 積水ハウス(株)	(株)三井住友銀行 西日本旅客鉄道(株)	日亜化学工業(株) (株)クラレ岡山事業所	他
-------	-----------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------	---

■教職員数

(平成23年5月1日現在)

理事長・総長	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計
1	1	3(※)	168	69	29	2	2	1	275

(※)事務職員(総合企画局長)含む

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	190	77

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

科目	年度 23年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	8,065,304	7,739,266
補助金収入	1,181,149	1,232,432
その他収入	554,717	369,615
帰属収入合計	9,801,170	9,341,313
基本金組入額合計	△ 465,096	△ 128,161
消費収入の部合計	9,336,074	9,213,152
人件費	6,462,872	4,940,606
教育研究経費	2,722,141	2,801,895
管理経費	603,596	559,371
その他支出	138,371	141,947
消費支出の部合計	9,926,980	8,443,819

※人件費に退職給与引当金特別繰入額を計上しています(14頁参照)

■施設設備整備(抜粋)

40年を経過し老朽化が目立つ建物、施設については、建て替えを検討するとともに、改修工事を行いました。

また、装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器や改組新設した学科の設備等を計画に基づき整備しました。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
加計記念体育館改修工事	120,000
第11号館6階実習室改修工事	5,600
第25号館トイレ改修工事	5,010
第27号館トイレ改修工事	890
スカイテラストイレ改修工事	600
情報処理センター事務室受付改修工事	800
蒜山学舎裏境界フェンス設置工事	744
猪対策RI施設西側法面整備工事	1,780
笹ヶ瀬グラウンド南側擁壁工事	3,400

主な装置・設備関係

(鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史事業による大型機器)

事業名	金額
顕微レーザーラマンシステム (補助金決定額：14,665)	21,998
粉末X線回折パターン総合解析システム (補助金決定額：4,200)	6,300

(その他の大型機器)

事業名	金額
極微量単結晶X線構造解析装置 (補助金決定額：26,369)	67,200

主な届出・申請関係

事業名	金額
理学部 動物学科 機器・器具(創設費)	6,000
グリーン元素科学共同研究	53,797
鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史共同研究	18,210

平成23年度 事業報告

倉敷芸術科学大学

4年後の創立20周年を前に、教職員一体となって、地域になくってはならない、より魅力ある大学づくりに邁進します。



1. 大学基準協会によって行われた認証評価の内容を精査し、教育研究、施設設備の充実を図り、地域になくってはならない大学として努力しました。

2. 大学の諸規程を見直し、大学設置基準を守り、より効率的な運営を行いました。

3. 芸術と科学を融合した芸術科学の特徴を生かし、幅広い知識と柔軟な思考力を身に付けた、問題解決型人材の育成に力を入れました。

4. 入学定員の確保のため、学部学科のありかた、外国人留学生受け入れ体制の強化等に努めました。

5. 附属施設「ヘルスピーア倉敷」を産学官連携のもと、社会に開かれたライフサイエンス実践道場として広く利活用されるように努めました。

2. 平成24年4月開設予定の別科（1年課程・調理師養成、2年課程・製菓衛生師養成）の学生受入れのための創設準備を行いました。

倉敷芸術科学大学 学長 添田 喬



※添田 喬学長9月30日付退任、
10月1日付唐木 英明新学長就任

教学の充実

■キャリア教育

平成18年度から3年間、現代GPで培ったスキルをもとにさらに発展させ、「倉敷まちづくりプログラム」と位置づけ、前年度に引き続き前に踏み出す力、チームで働く力、考え抜く力を養うための職務体験を通して、課題発見力・実行力・状況把握力等、自らの役割を見つけ、積極的に自立・挑戦していけるキャリアの形成や社会人に求められる基礎的能力を高める教育を行いました。

■産官学連携教育

倉敷市の推進する中心市街地活性化事業や経済産業省所管の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業と協力し、都市づくり、産業、観光振興など地域と連携した人材育成を進めました。また、デザイン・映像分野では企業や行政機関から依頼される製品デザイン・CM等の製作により、学生の意欲向上をめざした生きた課外授業を行いました。

■高大連携教育

文部科学省SSH(スーパーサイエンスハイスクール)採択校の岡山県立玉島高等学校とはIT科学や生命科学分野、岡山県立総社南高等学校・香川県立高松工芸高等学校および広島県立熊野高等学校とはキャリア教育や美術工芸分野、岡山理科大学附属高等学

校とは美術工芸、デザイン、アニメーション、IT科学分野での連携を引き続き行い、大学、高校間の境目のない接続教育と本学の教育理念「芸術と科学の協調」の実現に努めました。

■入学前教育・初年次教育・公務員対策講座

昨年度に続き、学習支援センターを中心に入学前の新入生に対し、課題をまとめた「Learning Support(入学前教育課題集)」や「学習支援センターだより」を作成、送付し、新入生が大学生活に期待や希望を抱いて入学できるよう、入学前準備教育を行いました。1年次対象に前・後期基本英語、基本数学、基本化学、基本物理の4科目8単位を、また、前・後期に全学年対象の公務員試験(数学)対策講座を加えることにより、初年次教育を充実させました。

教育改革支援事業

■岡山オルガノン

平成21年度から23年度までの3年間文部科学省「大学改革推進事業」の採択を受け今年度が最終年度となりました。この事業は、岡山県内15大学が連携し、(1)教養教育の充実・共同FD・SD活動による「学士力」育成、(2)実践的キャリア指導・社会活動への参画による「社会人基礎力」育成、(3)地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発進力」育成の3つの力の育成により岡山県から発信される地域創生型の人材育成に努めました。本学は、E-Learningで開設する倉敷まちづくり科目を3科目提供しました。

■キャリアデザインの発想による産学実践教育

平成22年度から26年度までの5年間文部科学省「大学生の就学力育成支援事業」に採択され、就職部(現キャリアセンター)・学生部、教務部(現学務部)・学習支援センター・健康管理センターの5つの部署が連携した複合的な就業支援体制を築きました。また、両備

グループと連携した産学実践教育を展開しました。さらに、キャリア教育科目を段階的に必修化して、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力・職業適合能力の5つの能力を向上させ、就職率を伸ばす取組みを行いました。

新設学科・コース等

■留学生別科

神戸留学生別科1年半コースを募集停止とし、1年コースのみの入学定員190名としました。1年半コースについては、本校のみとなり、アジア系留学生を中心に受け入れ、大学の授業に支障がでないよう、十分な日本語教育を行い、関連大学を含め、本学への進学を促しました。

■経営情報学科

IT科学科と起業経営学科を統合し、経営分野と情報分野の領域横断的教育と研究を行う、技術知識を身に付けた企業経営者の育成や企業経営センスを身に付けた情報技術者の育成をめざす経営情報学科を設置しました。

■アロマ・サイエンスコース(生命科学科)

生命科学部生命科学科では、香りの調合や食品・化粧品等への配合を学び、また、香りの分析や合成、香料植物の栽培、香りの効果やアロマセラピーも併せて学び、広く香りの業界で活躍できる人材を育成するコースを設置しました。

■健康医療学科

健康維持を主体とした教育・研究をめざし、東洋医学に基づくはり師・きゅう師の養成、健康運動やスポーツ活動における障害予防・身体ケアを担うアスレティックトレーナー(AT)の養成、メンタルケアのできるセラピスト、また生活習慣病に対する予防策としての薬膳等を取り入れた食生活指導ができる人材等、総合医療的に人間の健康ケ

アができる人材の育成をめざす健康医療学科を設置しました。

申請・届出関係

■入学定員の見直し

芸術学部メディア映像学科の入学定員を30名から35名に、産業科学技術学部経営情報学科の入学定員を60名から50名に、生命科学部生命医科学科の入学定員を45名から50名に変更する届出を行いました。

■別科の新設

併設の「倉敷 食と器 専門学校」を募集停止し、本学組織の別科として新たに調理師別科（1年課程）と製菓衛生師別科（2年課程）に改編するための申請を行い、平成23年10月別科での養成施設として認可されました。

2部優勝（H23. 5. 20～22）

（2）全日本学生柔道優勝大会

3回戦敗退（H23. 6. 24～26）

（3）中四国学生柔道体重別選手権大会

団体戦 第3位（H23. 9. 3～4）

■空手道部

（1）中四国空手道選手権大会

個人形 第2位（H23. 5. 8）

■アーチェリー部

（1）岡山県新人戦

第1位（H23. 9. 25）

■ウエイトリフティング同好会

（1）中国ウエイトリフティング競技選手権大会

第1位（H23. 8. 20）

■フィギュアスケート同好会

（1）全日本インカレ

女子Aクラス総合第16位（H24. 1. 6～9）

（2）国民体育大会

成年女子第7位入賞（H24. 1. 28～31）

課外活動

■バスケットボール部

（男子）

（1）中国大学バスケットボール選手権春季大会
優勝（H23. 4. 29～5. 3）

（2）中国学生バスケットボール大会新人戦
優勝（H23. 6. 16～19）

（3）中国学生バスケットボール選手権秋季大会
優勝（H23. 9. 9～10. 16）

（女子）

（1）中国大学バスケットボール選手権大会
第3位（H23. 4. 30～5. 3）

（2）中国学生バスケットボール大会新人戦
優勝（H23. 6. 16～19）

■柔道部

（1）中四国学生柔道優勝大会

学生募集

■重点地区・加計グループ力を利用した広報戦略

兵庫県西部、北部および広島県東部を重点地区として各学部から担当者を決めて重点的に広報活動を実施しました。沖縄県では説明会の実施、福岡県においても初の説明会を企画する等、加計グループ力を結集して効率的な広報活動を展開しました。

■ホームページの充実

①モバイル（携帯電話）版ホームページの充実

モバイル（携帯電話）版ホームページをさらに充実、学長コラム、副学長コラム、職員コラム、適正学科診断等を企画、オリジナルキャラクターを利用してより高校生目線による展開を行いました。制作には、学生を起用し、より親しみやすいホームページ作りを目指し、学部学科情報、入試

情報、オープンキャンパス案内等トピックスを一括送信できる体制を整備しました。

②留学生対象のホームページ

昨年度から継続して留学生へのアプローチを強化するため、海外からのアクセスで、学部学科情報、入試情報、学納金情報、下宿情報などが入手できるように外国語版ホームページを整備しました。これにより、優秀な外国人受験生、留学生の確保に努めました。

■大学トピックスのタイムリーな公開

受験生に対して、本学が伝えたい情報を1枚のチラシにまとめて、タイムリーに大学の情報を広報できるよう展開しました。

■高校生のための芸術展の開催

芸術学部においては、第6回全国高校生現代アートビエンナーレ展を平成23年12月3日～23日大原美術館にて開催し、認知度向上のための広報活動の一助にしました。

■大学の将来を考える「将来構想検討会」の起ち上げ

入学志願者をいかに増やすか、魅力ある大学にするためにはどうしたらよいかを次の世代を担う若手教職員を中心に考えていく「将来構想検討会」を10月に起ち上げ、大学の将来について、活発に議論しました。

就職活動支援

■就職ガイダンス・就職対策講座等

就職ガイダンスは、3年次・修士1年次生を対象に年間15回計画しました。早期から学生の就職に対する意識の向上を促すため、3年生の前期から実施し、OB・OGの体験報告会をはじめ、マナー・メイク講習、個人／集団面接トレーニングや

集団討論トレーニングのほか、企業担当者を招いての業界研究会なども取り入れて実施しました。就職対策講座は、8月と12月に計4日間実施し、自己分析対策、筆記試験対策等を集中的に実施しました。また、公務員採用試験対策講座を通年で実施し、公務員希望者の支援を行いました。

■職業適性等

3年次生対象に、年2回（7月・10月）SPI適性模擬検査を実施しました。また、11月には就職実践模試（一般常識・基礎学力テスト）やエントリーシート攻略テストを実施するなど、実際の就職試験に備えました。

■就職支援

就職関連情報を、学内主要箇所に設置した大型表示モニターにリアルタイムで表示するとともに、学生の携帯電話やパソコンにメールで配信し、適時に情報を提供しました。また、学生は本学向け求人情報をキャリアセンターホームページで閲覧できるほか、学生控室に設置したタッチパネルでも常時閲覧可能としました。採用試験に向けた面接指導や履歴書指導のほか、就職に関する相談もキャリアセンターで随時受付し、学生に対するきめ細やかな就職支援を行いました。

■就職懇談会

企業担当者と教職員が情報交換を行う、加計グループ合同の就職懇談会を、東京（11月）、広島・大阪（3月）で開催し、就職先の開拓や採用情報の入手に努めました。また、2月には企業担当者を本学に招いて行う学内就職懇談会を開催し、参加企業と学生との面談会、教職員との情報交換会を実施しました。

■「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

キャリアセンター（旧就職部）の取組み「入学から卒業までの総合的就職サポート体制の構築」が平成21年度から23年度までの3年間文部科学省

「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択され、今年が最終年度となり、順次申請計画に基づき、計画どおり実行しました。

主な行事

人事・組織

■学長・副学長・学部長等の改選

任期満了に伴い、学長、学長顧問、副学長、学長補佐、学部長、研究科長の改選が行われました。学長は、添田 喬氏(再任)、学長顧問には、土井 章氏(再任)、副学長には、加計 悟氏(再任)・藤原敏勝氏、副学長補佐には、河邊誠一郎氏、また、芸術学部長・芸術研究科長は、田中 孝氏(再任)、産業科学技術学部長・産業科学技術研究科長には、中島道夫氏、生命科学部長には、宮野善盛氏、人間文化研究科長には、妹尾 護氏(再任)が就任しました。なお、9月30日付添田 喬氏が学長を退任し、10月1日より唐木英明氏が学長に就任しました。

■キャリアセンター

低学年から就業意識をもたせ、早い時期からキャリア教育を行い、就業力を育成・支援していくため、現行就職部からキャリアセンターへ名称を変更し、幅広く学生の就職活動の支援を行いました。

■学務部

組織の簡略化・効率化を図り、学生サービス面を縦割りの組織から、横断的な学生支援体制にするため、学生部と教務部を統合し、学務部に名称を変更しました。

■留学生別科・インターナショナルセンター

増加する留学生問題に素早く対応するため、学園の設置する留学生別科をまとめる留学生別科長を置き、さらにインターナショナルセンターに次長職を設けました。

4月 2日	大学院（通信制）入学式
4月 5日	入学宣誓式
4月 6日 ～ 8日	新入生・在学生オリエンテーション
4月16日	霞祭
6月19日	来て見ん祭（オープンキャンパス）
7月30日 ～31日	オープンキャンパス
8月 2日 ～ 6日	前期定期試験
9月 3日	教育懇談会（地方会場）
9月10日	教育懇談会（本学会場）
9月17日	学園50周年記念J2リーグ [®] 試合（フジアリーノ岡山-ジェフエフエット [®] 千葉）
9月22日	後期オリエンテーション
9月23日	学部通信教育課程学位記授与式
10月 7日	留学生別科1年半コース入学宣誓式
10月10日	オープンキャンパス（授業公開）
10月29日 ～30日	芸科祭
11月 2日	加計グループ就職懇談会（東京）
11月19日	学園50周年式典
11月20日	オープンキャンパス
12月 3日 ～23日	高校生現代絵画・イラスト [®] エンターレ展
2月 6日 ～10日	後期定期試験
11月23日	オープンキャンパス
2月13日	就職懇談会（本学）
3月 2日	就職懇談会（広島）
3月 9日	就職懇談会（大阪）
3月23日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成23年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数			収容定員	在学者数			秋期入学 ※
			留学生	社会人	留学生		社会人			
大 学 院	芸術研究科（博士）	4	6	1	1	12	10	1	2	
	芸術研究科（修士）	20	9	0	0	40	17	0	0	
	産業科学技術研究科（博士）	4	3	0	0	12	4	0	0	
	産業科学技術研究科（修士）	16	9	0	0	32	18	0	0	
	人間文化研究科（修士）	15	5	3	0	30	14	10	0	
大学院 計		59	32	4	1	126	63	11	2	0
学 部	美術学科 (募集停止)	—	—	—	—	0	3	0	0	—
	美術工芸学科	35	22	0	0	160	123	2	0	
	メディア映像学科	30	44	1	0	120	133	7	0	
	工芸・デザイン学科 (募集停止)	—	—	—	—	0	1	0	0	—
	デザイン学科	35	30	1	0	130	145	2	0	
計		100	96	2	0	410	405	11	0	0
部 学 科	IT科学科 (募集停止)	—	—	—	—	100	58	6	0	—
	起業経営学科 (募集停止)	—	—	—	—	90	81	54	0	—
	経営情報学科	60	43	31	0	60	43	31	0	
	観光学科	45	40	28	0	175	154	91	2	
	計	105	83	59	0	425	336	182	2	0
部 生 命 科 学	生命科学科	45	54	0	0	175	201	0	0	
	健康科学科	55	74	0	0	235	242	0	0	
	生命動物科学科	65	70	0	0	271	288	0	0	
	生命医科学科	45	48	0	0	175	204	0	1	
	健康医療学科	30	19	0	1	30	19	0	1	
計	240	265	0	1	886	954	0	2	0	
学部 計		445	444	61	1	1,721	1,695	193	4	0
通学制 合計		504	476	65	2	1,847	1,758	204	6	0
大 学 院 (通 信 制)	芸術研究科（修士）	10	2	0	1	20	4	0	3	
	産業科学技術研究科（修士）	20	0	0	0	40	0	0	0	
	人間文化研究科（修士）	30	4	0	3	60	10	0	9	
計		60	6	0	4	120	14	0	12	0
学部 (通信教育課程)	産業科学技術学部 (募集停止)	—	—	—	—	500	12	0	4	
計		—	—	—	—	500	12	0	4	0
通信制 合計		60	6	0	4	620	26	0	16	0
総合計 (通学制+通信制)		564	482	65	6	2,467	1,784	204	22	0
留 学 生 別 科	留学生別科	60	17	17	—	70	35	35	—	11
	神戸留学生別科	190	8	8	—	230	36	36	—	—
	留学生別科 計	250	25	25	0	300	71	71	0	11

※ 秋期入学については、5月2日以降（平成23年5月2日～平成24年3月31日）に入学した者です（単位：人）

■卒業者数等一覧

(平成23年度)

区分	修了者・卒業者	満期退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	2	0	0	0%	-	0	0	0
	修士	23	-	13	13	100%	3	4	0
学部	351	-	210	182	87%	20	82	24	41
大学院(通信制)	5	-	-	-	-	-	0	0	3
学部(通信教育課程)	2	-	-	-	-	-	0	0	5
留学生別科	53	-	-	-	-	52	21	0	1

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成24年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	エス・ハイ・エル・カハヤ(株)、(株)倉敷アビエースクエア、三共ボリエレン(株)、(株)ファルコバイオシステムズ、日本ケア(株)、(財)足立美術館、越前松島水族館、大阪赤十字病院、福山市役所、岡山市消防局 大阪府警察本部 他
-------	---

■教職員数

(平成23年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計	事務職員
1	2	72	21	14	6	1	2	119	61

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

年度 科目	23年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	2,651,761	2,764,238
補助金収入	487,560	497,939
その他収入	280,446	143,248
帰属収入合計	3,419,767	3,405,425
基本金組入額合計	△ 249,555	△ 37,643
消費収入の部合計	3,170,212	3,367,782
人件費	2,920,277	2,255,844
教育研究経費	1,085,271	1,140,809
管理経費	278,942	271,466
その他支出	26,267	27,344
消費支出の部合計	4,310,757	3,695,463

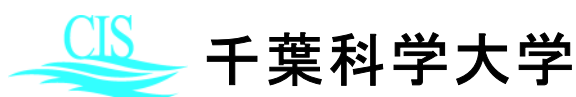
※人件費に退職給与引当金特別繰入額を計上しています(14頁参照)

■施設設備整備(抜粋)

(単位:千円)

事業名	金額
トイレ改修工事(女子、人感センサー)	5,000
5号棟3階盗難防止用ドア設置	2,205
ヘルスピア倉敷フットサルコート改修工事2面	6,930
ヘルスピア倉敷追加改修工事	50,000
芸術学部関係PC設備	24,300
学内ネットワーク整備更新	99,999
証明書発行機更新	9,434
就業力育成支援事業[補助金]	2,827
観光学科図書[創設経費]	1,705

平成23年度 事業報告



「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる
人材の養成を行う



3.11東日本大震災における危機
対応の経験を教育と大学運営に生
かすことが大切であると考え、ピ
ンチをチャンスに変える努力をし
ました。

学生ひとりひとりの能力を伸ばし、「夢の実
現」を支援するために教職員が一致団結する
よう種々努めました。

また、次世代を地域で育てて教育するとい
う「知育地就」の教育サイクルの確立を目指
して、地域との関わりを深め、地域に根ざし
た大学としての存在感を高めるよう努力しま
した。

具体的には

ボランティアセンターを24年度に設置しま
す。学部間の壁を取り除くために共通基礎教
育を全学共通として24年度入学生より実施し
ます。

2つの学部に分散している動物系の教育体制
を一本化するために、危機管理学部に動物危
機管理学科を設置し、新入生を迎え入れます。

千葉科学大学 学長 赤木 靖春

教学関係

■大学の目的、各研究科、各学部の目的

学園建学の理念に基づき、大学の目的を教育で
は『健康で安全・安心な社会の構築』に寄与でき
る人材の育成、研究では『健康で安全・安心な
社会の構築』の探求、社会貢献では‘地域と共生
する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参
画’と定め、実施しました。

各研究科各専攻においては教育研究上の目的を
それぞれ定め、各学部各学科もそれぞれ教育目標
を設けて、それに向かって実施しました。

■教育課程再編成による教育内容の充実

昨年度の大学基準協会による外部評価、自己評
価を経て、学生の質の向上、キャリア教育とも連動
した一般基礎科目、学部共通科目を検討整理し、学
生にとって有用で、効率のよいカリキュラムに再
編成しました。また専攻科目についても平成24年
度の学科新設に合わせて、既設学科のカリキュラ
ムを見直し、科目内容、科目数など学生にとって無
理のないカリキュラムを検討いたしました。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望もあり、昨年引き続き教員免
許状更新講習を実施しました。

講習科目

必修領域1講座 8月6日～7日（12時間）

「教育の最新事情」

選択領域9講座 8月8日～10日（1日4講座を3日実施）

- 「薬と人間」
- 「防災教育と救急救命」
- 「銚子ジオパークのジオサイトを利用した体験型授業の展開」
- 「コンピュータ・シミュレーション体験実習」
- 「学校のリスク・危機管理研究」
- 「対人関係の心理学」
- 「理科指導の体験実習講習①物質の加熱・冷却変化の観察」
- 「成績処理に使える統計・役立つ情報」
- 「学校薬剤師の仕事」
- 「理科指導の体験実習講習②遺伝子研究の現在」

教育・学生支援事業

■学生支援推進プログラム

平成21年度から3年間の計画で採択された、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムへの取組を継続いたしました。

取組は以下の6つの柱で構成していますが、今年度も⑤の銚子周辺企業との連携強化に重点を置き、企業訪問、地元企業との交流会、地元就職希望者への企業説明会・バスツアーなどを実施いたしました。

- ①全学キャリア支援カリキュラムの整備
- ②個別面談指導の強化
- ③就職関連情報提供システムの運用
- ④内定取消等の学生への支援体制整備
- ⑤地元企業との連携強化
- ⑥学内合同企業説明会、企業との情報交換会

■今年度の教育・学生支援事業への申請

大学生の就業力育成支援事業へは危機管理学部からキャリア関連科目を踏まえて申請しました。

■未来経営戦略推進経費

私立大学等経常費補助金特別補助において、経営改善に向けた取組を対象とした「未来経営戦略推進経費」に採択されました。

申請・届出関係

平成24年度より薬学部、危機管理学部に新たな学科・コースを設置、大学院博士課程には新たな専攻を設置する申請を行いました。

平成24年度 平成23年度

大学院

薬学研究科	薬科学研究科
薬学専攻博士課程	薬科学専攻博士課程(後期)
	薬科学専攻博士課程(後期)

薬学部

生命薬科学科	生命薬科学科
創薬科学コース	創薬科学コース
化粧品科学コース	化粧品科学コース
	動物生命薬科学コース

危機管理学部

環境危機管理学科	動物・環境システム学科
理科教員コース	動物学コース
環境科学コース	マリンバイオコース
	環境科学コース

動物危機管理学科

ヒトと動物の共生コース
動物福祉コース

就職活動支援

学生に対する就職支援、キャリア支援、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などを行っております。特に、地元出身学生の増加に合わせて、地元企業に重点を置いて開拓しております。

また、平成21年度採択された学生支援推進プログラムについて、平成23年度も継続して実施

しております。

■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知る業界セミナーを学内で開催します。また、3年次生（薬学科は5年次生）全員との個人面談を実施し、個別指導を行いました。

■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏期休暇中に1～2週間の就業体験を実施しました。

■合同企業説明会

採用担当者と本学学生がブース別に面談する合同企業説明会を2回（12月、2月）学内で開催しました。

■キャリア支援

キャリア支援講座やビジネスマナー講座などを開講し、自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に伝えていきました。

■公務員試験対策

2月から3月にかけて公務員採用試験の筆記対策として基礎講座（主に1・2年次対象）、実践講座（3年次対象）を開講しました。また、面接対策セミナーを実施しました。

業者主催公務員模擬試験を学内で実施しました。

■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者、秘書検定、潜水士などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施しました。

■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行い、特に銚子市周辺の地元企業の開拓に努めました。また、加計グループ5大学1短大共催

の企業懇談会（東京、大阪、広島）に参加し、採用依頼を行いました。

学生募集

日本初の危機管理学部を擁することを強みに、危機管理、安全管理の素養を身に着けた人材育成をキャッチフレーズに両学部をアピール、また消防官、警察官など公務員に強い大学も強調して、学生募集を行っていきます。また今までの学生募集の結果、定員を下回っている現状を鑑み、新たな視点を持つての学生募集を行って行きました。

学生、保護者及び高校の満足度充実に努めるべく、大学・地域へ貢献した学生への表彰制度（金・銀・銅のメダルおよび表彰状授与）を設置し、被表彰の保護者及び出身高校校長への受賞のお知らせを行い本学の取り組みを理解していただき、満足度の向上に努め、また地域の満足度向上をめざし、銚子・銚子東・旭ロータリー所属のロータリアンを卒論の発表時に招待し、本学の教育内容をより深く理解していただける機会を設けました。

■地元銚子市をはじめ、千葉県、茨城県の通学圏の高校に対する広報活動の強化

通学圏内（60km内）の高校については、最重点校と位置づけ、高校訪問・出張講義・オープンキャンパス動員等の活動をより強化し、安定した入学者確保に努め、鹿島神宮（茨城）一本学間（利根川北側）のスクールバス運行を行い、学生の利便性向上とPRの拡大を図りました。また、入学式・卒業式など本学と地元高校の学校行事に教職員が参加し合える体制を作っていました。

■東北地方など支局長による広報活動の強化

今後、志願者増が望めそうな地域、特に薬学部がない秋田県や山形県など東北地方を中心に支局長を新たに配置して、広報活動を強化しました。

■教育提携校締結の拡大と関係強化

現在14校+3校との協定を結んで、新たに東総地区の高校との提携（^{そうき}匠瑳高校）を手始めとして、東日本の受験実績が継続している指定校との教育提携を強化していきました。また現在締結している提携校に対しては、出張講義、オープンキャンパス動員は勿論、PTA総会等への働きかけも行ってまいりました。また、入学式・卒業式などお互いの学校行事に教職員が参加し合える体制を作っていました。

■出張講義の拡大と内容の充実

進学説明会と並び、学外において高校生と直接話が出来る出張講義は、年々実施回数を増やしています。今後は話す内容を教員と検討し、「高校生に夢を持たせる」内容で、多くの高校生に本学の良さを伝えていきました。

■留学生の募集充実

国際交流の観点と少子化など将来を見据えて留学生の募集充実を目指し、具体的には毎年50名程度の留学生を考えています。特に本学薬学部への大韓民国留学生募集に重点を置き、募集の充実に努めました。

■E-広報の充実

本学ホームページの内容やユーザビリティをさらに充実するとともに、各業者の主力なWeb企画と連動することで、様々な受験者層に働きかけ、資料請求者の拡大を図り、また資料請求者へタイムリーにメルマガを発信することにより、志願者のアップにつなげていきました。

■オープンキャンパスの充実

両学部が共同して行った災害救助演習などの企画の成果もあり、昨年度は開学以来最高の動員数となりました。今年度も参加した高校生に「この大学で、この研究室で、こんな研究をしてみたい」という夢を持たせるための内容を検討し、「見せる」内容をより充実したものに変更しました。

■その他

1)合格者へのアプローチ強化

入学前に合格者やその保護者を集い、ミニキャンパスツアーを開催しました。大学の案内や質疑応答をおこない、PRやサービスを通じて本学への理解を深め、入学者への歩留まりアップを図りました。

2)地元の各種団体との連携

市役所等とのタイアップにより、市庁舎への垂幕掲載などにより市民の本学に対する理解を深めます。また、公開講座の開催などにより地域貢献にも努めました。

3)県人会による在學生出身高校との関係強化

学友会に県人会を組織したことに伴い、県会に各県訪問担当者を配置し、在學生と親密な関係を持つことが出来るようになりました。出身高校との関係を強化して、顔の見える広報活動、高大一貫した教育活動を行いました。

4)高校との親密な関係の構築

在學生と教員とで、学生の母校（担任）を訪問し、高校に親近感を持たせることで、志願者数増に取り組みました。

5)常時学内を見学できる体制の整備

各学部エントランスに学科の概要、研究室前廊下には研究内容を表したパネルを設置して、いつでも誰が来てもPRできるように整備しました。

6)各訪問高校別カルテ作成

高校訪問担当者の変更があっても各高校のデータが引き継がれるように各県別各訪問高校別にカルテを作成しました。

7)県別目標入学者数設定による意識の向上

各高校訪問担当者に各県ごとの目標入学者数（ノルマ）を設定して、担当者の意識を喚起することで志願者数増、入学者の確保に努めました。

■ ボランティア活動

23年度の活動としては、本学の学生消防隊、スターラビッツの隊員及び一般学生有志並びに引率教職員、事務職員（計41名）によるボランティア活動が、東日本大震災の被災地にて行われました。

夏季休暇の期間中4期に分けて岩手県遠野市を拠点として活動されているNPO法人遠野まごころネットが主催するボランティア活動に加わり、各期とも3～4日間の滞在期間中に瓦礫撤去、清掃作業、写真修復、被災者住民とのコミュニケーションなどの活動に従事しました。

主な行事

4月 4日	在学前期オリエンテーション
4月 7日	入学宣誓式
5月29日	オープンキャンパス
7月30～31日	オープンキャンパス
7月28日 ～8月10日	前期定期試験
8月6～10日	教員免許状更新講習会
8月27日	オープンキャンパス
9月10日	教育進路懇談会（地方）
9月17日	後期オリエンテーション
9月18日	教育進路懇談会（本学）
10月 1日	オープンキャンパス
11月12～13日	青澄祭（大学祭）
12月17日	合同企業説明会
1月25日 ～2月 7日	後期定期試験

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成23年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		取容定員	在学者数			秋期入学 ※
			留学生	社会人		留学生	社会人		
大学院	薬科学研究科（博士）	5	3	0	10	6	0	0	
	薬科学研究科（修士）	10	11	0	20	19	0	0	
	危機管理学研究科（博士）	3	1	0	6	2	0	0	
	危機管理学研究科（修士）	5	8	5	10	19	7	0	
	大学院 計	23	23	5	46	46	7	0	
薬学部	薬学科（6年制）	120	77	4	915	673	12	7	
	薬科学科 (募集停止)	—	—	—	80	45	0	0	
	動物生命薬科学科 (募集停止)	—	—	—	80	49	0	0	
	生命薬科学科	50	21	1	100	57	3	0	
	計	170	98	5	1,175	824	15	7	
危機管理部	防災システム学科 (募集停止)	—	—	—	55	29	6	0	
	環境安全システム学科 (募集停止)	—	—	—	95	65	10	0	
	危機管理システム学科	100	117	31	375	374	105	0	
	動物・環境システム学	60	46	2	185	131	16	0	
	医療危機管理学科	80	93	0	265	248	3	0	
	航空・輸送安全学科	40	18	3	80	34	11	0	
	計	280	274	36	1,055	881	151	0	
学部 計	450	372	41	2,230	1,705	166	7		
総合計	473	395	46	2,276	1,751	173	7		
留学生別科	40	13	13	40	25	25	0		

※ 秋期入学については、5月2日以降（平成23年5月2日～平成24年3月31日）に入学した者（単位：人）

■卒業生数等一覧

(平成23年度)

区分	修了者・ 卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	16	8	8	100%	2	5	4	1
学部	276	193	171	89%	12	73	38	52

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成24年4月1日現在）

(単位：人)

主な就職先	アイングループ、くすりの福太郎、杏林製薬、日本ペーリカール・インゲルハム、慶應義塾大学病院、東京消防庁、警視庁、陸上自衛隊幹部候補生・航空自衛隊幹部候補生他
-------	--

■教職員数

(平成23年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	1	55	22	14	10	3	1	107	47

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	23年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	2,741,435	2,606,722
補助金収入	695,499	386,085
その他収入	205,645	76,709
帰属収入合計	3,642,579	3,069,516
基本金組入額合計	△ 15,635	△ 295,907
消費収入の部合計	3,626,944	2,773,609
人件費	2,244,762	1,825,436
教育研究経費	1,515,771	1,267,752
管理経費	466,870	368,722
その他支出	22,239	4,346
消費支出の部合計	4,249,642	3,466,256

※人件費に退職給与引当金特別繰入額を計上しています(14頁参照)

■東日本大震災災害復旧事業

東日本大震災により、被災した施設・設備の復旧を行いました。

総事業費：337,174千円

補助金額：168,587千円

■施設設備整備（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
3号館改修工事 約188㎡ 薬学部薬科学科化粧品コース実験室確保のため	7,100
4号館改修工事 約144㎡ 危機管理学部のゼミ室を共同ゼミ室として有効に使用するため	900
健康管理センター 防音対策工事	1,100
両替機	315
公用バス	3,537
薬学部化粧品コース実習用機器	15,800
実習用機器	19,581
大型印刷機	298
学生食堂、喫茶棟厨房機器	15,126
学生食堂券売機	1,600
薬学部実習用機器 (補助内定額：2,475)	6,668

平成23年度 事業報告

岡山理科大学附属高等学校

建学の理念の原点に立ち返って、これまで以上に、生徒・保護者・地域社会から信頼される学校づくりを推進します。



1) 生徒一人ひとりの学力を向上させ、満足のいく進路実現を保証。

2) 礼儀正しく、品位ある生徒の育成。

3) 教員の意識改革及び資質向上を図り、安心して子供の教育を任せられる学校であるとの評価を確立。

以上3項目を教育の中心とし、学力向上と進路実現のため、授業改善・学習支援に取り組むとともに、関連大学との実効性のある高大連携を推進し、関連大学への進学者の増加を図りました。

また、品位ある生徒の育成のため、基本的な生活態度の確立(とくに挨拶の励行、身だしなみの指導、遅刻の防止、朝読書の実施)に努め、危機感をバネに、学校組織、学校運営を改革し、教職員の意識の活性化を図るため教職員研修にも力を入れ、教職員集団が、それぞれの持ち味を活かしながらチームワークを発揮し、充実した教育活動が実践できるように努めました。

なお、信頼される学校づくりのため地域社会との交流の機会を増やし、それに加えて時代や社会のニーズに対応した科・コースの特色・魅力アップを実施していきました。

岡山理科大学附属高等学校 校長 橋爪 道彦

関連校との連携による質の高い教育の提供

■出張講義の活用を行いました

- ・進学理大コース
(岡山理科大学全学科より)
- ・健康・スポーツコース
(倉敷芸術科学大学健康科学科より)
- ・アニメ・デザインコース
(倉敷芸術科学大学芸術学部より)
- ・生命動物コース
(岡山理科大学・岡山理科大学専門学校の生命・動物系学科より)
- ・機械科、電気情報科(岡山理科大学 工学部より)
- ・進学医療コース
(玉野総合医療専門学校・理大より)

■校外学習の推進を行いました

- ・岡山理科大学での情報系科目の受講
- ・岡山大学による高校生向け科目の受講
- ・サイエンスサマーキャンプ・科学の祭典等への参加
- ・倉敷芸術科学大学での実習(アニメ・デザインコース)
- ・池田動物園・理専での実習(生命動物コース)
- ・倉敷芸術科学大学での受講(通信制課程)
- ・玉野総合医療専門学校での見学実習(進学医療コース)

学校内での学力向上取組

- ・朝読書を実施しました。
- ・補習・諸検定試験の実施、模試の活用を行いました
- ・各学年毎に生徒・保護者対象の進路ガイダンスを実施しました。
- ・加計塾による受験教科指導を行いました。

生徒指導への取組

- ・朝のあいさつ運動を実施しました。
- ・休み明けの遅刻防止強化週間を実施しました。
- ・PTAと協力しての保導活動（街頭保導・列車保導・バス乗車指導）を実施しました。
- ・教育相談室・保健室と担任・生徒部・管理職との連携強化を図りました。
- ・岡北セーフティネットを通じて地域との協力・連携強化を図りました。

教職員への資質向上への取組

- ・英語科の研究授業を行いました。
- ・教職員・保護者対象の各種研修会を実施しました。
- ・教員による倉敷芸術科学大学の視察を行いました。
- ・予備校主催の受験指導講座へ参加しました。
- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の申請が採択されました。
- ・新学習指導要領へ対応し、カリキュラム変更を行いました。
- ・道徳教育計画を策定し、実施しました。
- ・総合的学習計画を策定し、実施しました。
- ・インターシップ計画を策定し、実施しました。
- ・人事考課導入へ向けての準備を行いました。

学科・コース等改革

■進学医療コース

玉野専門との交流を深めており、吉備国際大学においても実習見学を行い、その他医療関連施設への見学、医療系への訪問等キャリア教育を推進しました。

また、完成年度の生徒の進学先確保に向けて、医療系大学へのPR活動を展開しました。

■アニメ・デザインコース

倉敷芸術科学大学の芸術学部との連携も積極的に行いました。

■進学総合コース

関連校との連携も強化し、関連校を中心に進学実績の向上に努めました。

■特別進学コースの改革

特別進学コースは、国公立大学進学を目的として設置され、一定の進学実績を挙げています。本校科・コースの中でもっとも志願者数の多いコースであり、その多くは公立進学校との併願志願者で高学力層です。ここ数年このコースの志願者が減少していますが、その要因は他の私立高校が特別進学コースの特色化に力を注いでいて、そちらに志願者が流れていると考えられます。従って本校特別進学コースの魅力を高め特色化を図り志願者増を目指す事が急務であり学習塾との連携を強化し、平成24年度に向けて特別進学コースのイメージチェンジ、イメージアップのための改革に取り組みました。

■Prep-1、Prep-2 クラス

中高一貫コースPREP（難関大学進学）クラスについて、平成22年度までのカリキュラムを適用したクラスを「Prep-1」とし、さらに体育の履修単位を増やしたカリキュラムを適用したクラスを「Prep-2」に再編しました。

平成24年度開設に向けて

特別進学コースは、昨年度トップグレードクラスとサクセスクラスに分けて募集し、入試の段階から2クラスに分け合否判定を行いました。

しかしながら、上位合格者は、全て公立高校へ進学したことから、平成24年度入試では、Sコースとしてくり募集を行いました。

2年次から理系の上位をトップグレードクラスに分ける事を前提として募集を行い、奨学生制度・特典の充実、採用条件を若干緩和し、上位層の受験者増を図りました。

このことは、入試得点のみでは、学力の伸長度を判定することは容易でなく、逆に2年次で理系上位生徒を選抜することを前提とした教育は、学習効果を上げ、生徒のモチベーションを高めると判断し、更には、理大附属に入学してから学力が伸びたと、生徒・保護者が実感し、自信に繋がることの影響力は、今後の学校運営に欠かせない成果となり、今後の募集活動に好影響を与えるものとし、平成24年度に向け募集を行いました。

生徒募集

入試広報部教員と中高入試広報室職員とが共同できめ細かい広報活動を行いました。3月下旬に入学生、在校生の状況確認、報告をするための中学校一斉訪問からスタートしていき、加えて、塾訪問も教頭を中心に随時訪問し、本校の魅力をPRし、受験を勧めました。7月、10月にオープンスクールを行う他、8月にも部活動中心のオープンスクールも行い、勉学・スポーツ両面から紹介していききました。その他学校説明会（中学校、塾、生徒・保護者対象）、入試セミナー等を開催し1人でも多くの生徒を獲得していきたいと考え中学訪問を実施いたしました。また昨年同様DVDを作成し、高等学校だけでなく加計学園、グループの大きさを理解していただきながら募集を行いました。入試についても本校ならではの地方会場（本校、倉敷、玉野、高梁）を設け、ニーズに合ったコース、学科を考え、常に前を見据えた広報活動を展開致しました。

就職活動支援と進学指導

早い時期からの進路目標確立のため、学年別・進路先別にガイダンス、講演会を計画し、また各科・コースにおいても生徒、保護者対象に進路説明会を実施して、生徒の進路意識を高めると同時に生徒一人ひとりに適した進学・就職先を指導していききました。

また、昨年同様に有名難関大学の指定校獲得のため、可能な限り大学訪問を行い、就職先ではより有名、優良企業の求人確保のため、企業訪問を実施していききました。

主な行事

4月 8日	始業式
4月 9日	入学式
4月30日	創立者の日
4月15日	交通安全講習会
5月14日	PTA総会
6月22～23日	球技大会
7月18日	第一回オープンスクール
8月31日	全校集会
9月21日	体育祭(警報発令のため中止)
10月 7日	文化祭
10月22日	第2回オープンスクール
1月7日	県外生入試
1月30/31日	選抜Ⅰ期入試
2月20日	選抜Ⅱ期入試
3月 1日	卒業式

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成23年5月1日現在)

課程・学科・コース名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	
全 日 制 課 程	普 通 科	進学総合コース		65		200
		進学医療コース		8		19
		特別進学コース		24		120
		中高一貫コース		40		86
		進学理大コース	380	52	1,140	160
		健康・スポーツコース		72		182
		アニメ・デザインコース		39		89
		生命動物コース		30		88
	普通科 計		330		944	
	課 程	機械科	80	71	240	202
電気科		(募集停止)	—	—	—	
情報科		(募集停止)	—	—	—	
電気情報科		40	30	120	91	
全日制課程 計		500	431	1,500	1,237	
通信制課程 (広域) 普通				600	260	
総 合 計		500	431	2,100	1,497	

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成23年度)

区分	卒業生	就職希望者		就職率	進学希望者		進学率	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
		A	B		C	D				
全日制課程	393	81	70	86%	312	301	96%	9	2	2
通信制課程	89	4	4	100%	52	52	100%			

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成24年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	J F E スティール(株)西日本製鉄所、三菱自動車工業(株)水島製鉄所、三菱造船(株)玉野営業所 (株)豊田自動織機、(株)デンソー、(株)N T T 備前製作所、(株)滝澤鉄工所、ナカウン(株) 他
主な進学先	九州大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、岡山県立大学、立命館大学、関西大学、同志社大学、 岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、吉備国際大学 他

■教職員数

(平成23年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計
(1)※	3	73	76

※校長は大学教員と兼務

事務職員
19

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	23年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	738,390	803,881
補助金収入	380,887	390,868
その他収入	71,225	98,804
帰属収入合計	1,190,502	1,293,553
基本金組入額合計	△ 387,958	△ 280,150
消費収入の部合計	802,544	1,013,403
人件費	1,070,782	1,087,223
教育研究経費	275,677	262,876
管理経費	144,077	154,242
その他支出	46,116	52,871
消費支出の部合計	1,536,652	1,557,212

■施設設備整備計画（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
御津国際交流会館 LPGボンベ庫増設工事	1,350
第2実習場のパソコンの買換	3,010
工業科実習場汎用旋盤機の買換	3,339
財務サーバー等の構築	531
笹ヶ瀬雨天練習場の修繕	4,830
形削盤の修理	914
第10校舎南側法面崩壊復旧工事	2,000
加計学園50周年記念館	500,000

平成23年度 事業報告

岡山理科大学附属中学校

中高六年一貫教育により勉強と課外活動を両立させながら、6年後は全国のトップ大学および医歯薬獣系大学、関連大学へ進学させることを通じて、日本社会各分野のトップリーダーとなる人材を育成する。



中高六年一貫制による思い切った先取り教育に加え、①自習教室（チューターによる支援強化）②トワイライト・セミナー

（学外有力講師による大学受験指導）、の充実により、生徒一人ひとりに対するキメ細かいフォローを行い、超難関大学・医歯薬獣系大学への進学実績を向上させると共に、課外活動（部活動・生徒会）を活発化させ、健全な体力と充実した気力を兼ね備えた、バランスの取れた人間形成をはかる人づくり教育

Human Education を充実させていきました。

また、岡山理科大学の支援により、理科実験を大幅に充実させることにより、理科教育に力を入れ、小学生向けの理科実験教室を定期的に開催し、「理科教育の理中」の特長を伸ばしていきました。

岡山理科大学附属中学校 校長 新倉 正和

教育の充実

■MEDICALクラス、PREPクラス

3年生から、学力強化を図るため、MEDICAL（医系進学）クラスとPREP（難関大学進学）クラスのクラス分けを行い、学力上位層の強化および下位層の底上げをはかりました。生徒一人ひとりに対するキメ細かいフォローを行い、超難関大学・医歯薬獣系大学への進学実績を向上させました。

■「理科教育の理中」の特長の強化

岡山理科大学基礎理学科理数系教員コースおよび科学ボランティアリーダーGPの教育・活動の一環として、院生・学生を定期的に派遣してもらい、理科授業の中における実験の回数を大幅に増加させ、理解度向上をはかりました。

また、課外活動において、科学部やロボット研究部を立ち上げ、昨年に引き続き、学会やロボコンへの参加・受賞を目指しました。

これまでに採択された文部科学省SPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）に加え、今年度より3年間採択された文部科学省「中高生の科学部活動振興事業」プロジェクトを核として、一層の理科教育充実を図っていきました。

■人づくり教育 Human Education

知力を重んじる傾向が強い現代世相の中で、知・徳・体の調和の取れた優秀な人材を育成することが重要であり、Human Education の強化を再認識すべき時と考えます。昨年度よりHuman Education の試み、外部講師(位田隆久先生)による論語教育を実施しました。

■チューターによる自習教室

昨年度に引き続き、放課後、自習教室を設け、岡山理科大学の大学院生をチューターとして配置し、生徒の質問に答えるなど、学力向上を計りました。特に、学力下位層については、指名補習も実施し、弱点強化をはかりました。

■イマージョン教育（英会話、芸術科目）

専任ネイティブ教員によるイマージョン教育（英会話、芸術科目）を継続・強化し、生活感覚の中から英語力を強化するとともに、グローバル・スタンダードを持ち、国際社会で活躍できる人材の育成をはかりました。

■教育交流協定の締結

一昨年度インフルエンザ流行のため中断した南オーストラリアのバンクシャー・インターナショナルハイスクールへの海外研修を再開し、同校との教育交流協定を締結して、相互の交流を深めるとともに、同校への海外研修の範囲を拡大する可能性を追求しました。

■校外研修、インターアクト活動の推進

これまで関連大学や関連専門学校への医療分野や芸術分野の研修を実施してきましたが、それに加えて人間力・自発力の向上を目的として、岡山理科大学の教育G Pの支援を受け、「屋久島での自然体験・環境学習」、牛窓ヨットハーバーにおける段ボール製ボート作りを中心とした「ものづくり自然体験学習」等を実施します。一昨年度から、岡山北西ロータリークラブの支援でインターアクト活動を開始していますが、ミャンマーへの支援活動とともに老人介護施設「済生会ライフケアセンター」でのケア活動支援を継続し、実施しました。

新規事業報告

■スーパー選抜クラス・選抜クラスの新設

設立10周年を迎えた理中（中高6年一貫）では、これまで1期生から4期生までが卒業しました。国立大学医学部医学科や東京大学、難関私立大学への進学を果たしています。思い切った先取り教育をベースとした、理中独自のMEDICAL/PREPクラス制が生徒一人ひとりの能力を引き上げるのに適したシステムを更に進化させ、大学附属のメリットを最大限に生かした理科教育の「スーパー選抜クラス」「選抜クラス」を導入し、平成24年度入試を実施しました。

生徒募集計画

■広報活動

生徒募集活動においては、塾及び小学校との連携をより一層深めるために、実施日を決めて教員が塾及び小学校への一斉訪問を実施しました。8月下旬に開催するオープンスクールに実験教室、バレーボール教室、ソフトテニス教室、イマージョン教育の授業、講演会を組み込むなど魅力ある内容にしました。また、学校案内をはじめ学内発行の新聞やPR冊子を、小学校及び小学校PTA並びに塾や町内会、ロータリークラブ宛にも発送し、学校のPR活動に努めました。体育祭並びに学習発表会の開催の案内も併せて実施しました。町内会、ロータリークラブ等との連携を通して、地域に愛され親しまれる学校づくりに努めました。

■具体的な方策

- ①小学校の重点学区を設けて、学校案内や入試要項を6年生全員に配布しました。
- ②重点塾を設けて、実験教室の案内をひとあし先に配布する。重点塾を対象にした実験教室を行うなど、塾との関係の強化を図りました。
- ③入試説明会やオープンスクールで医歯薬系に関する講演会を行いました。
- ④ソフトテニス部のジュニアチームに出向き、指導を行うなどして交流をはかると同時にPRを行いました。
- ⑤岡山シーガルズの河本監督と協力して、スポーツ少年団を回るなど、女子バレーボール部のPRを行いました。
- ⑥美術の授業で牛乳パックから手作りのハガキを作り、出身小学校にオープンスクールや近況報告を行いました。

■入試説明会

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 7月 4日 (月) | 塾対象 |
| 9月 23日 (金) | 適性検査対策講座 |
| 10月 29日 (土) | 適性検査対策講座 |
| 11月 11日 (金) | トワイライト説明会
(天文観測会同時開催) |
| 11月 26日 (土) | 神戸・姫路説明会 |
| 12月 3日 (土) | 入試直前説明会 |

■オープンスクール

- | | |
|------------|------------|
| 7月 30日 (土) | 9:30~12:00 |
| 8月 28日 (日) | 9:30~12:00 |
| 8月 29日 (月) | 9:30~12:00 |

■実験教室

- | | |
|------------|------------|
| 7月 30日 (土) | 9:30~12:00 |
| 8月 28日 (日) | 9:30~12:00 |
| 8月 29日 (月) | 9:30~12:00 |

主な行事

4月 9日	入学式
6月 28日	P T A総会、授業参観
7月 29日	休み前集会
9月 1日	休み明け集会
9月 10日	体育祭 (岡山ドーム)
9月 29日	前期終業集会
10月 3日	後期始業式
11月 5日	学習発表会
12月 17日	自己推薦入試
12月 18日	一次入試A日程
12月 24日	休み前集会
1月 5日	一次入試B日程
1月 10日	休み明け集会
1月 20日	百人一首大会
1月 21日	二次入試
3月 16日	義務教育修了式
3月 17日	海外研修 3/25まで
3月 19日	修了式

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成23年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	63	240	160

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成23年度)

区分	修了者	内部進学者	その他	退学者・除籍者	休学者	留年者
岡山理科大学附属中学校	61	40	11	0	0	0

(単位：人)

■教員数

(平成23年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計	事務職員
(1)※	1	14	15	2

※校長は大学教員と兼務

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

科目	年度 23年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	88,988	85,977
補助金収入	56,635	57,567
その他収入	4,987	4,283
帰属収入合計	150,610	147,827
基本金組入額合計	△ 682	0
消費収入の部合計	149,928	147,827
人件費	161,606	167,348
教育研究経費	37,384	35,843
管理経費	18,796	20,314
その他支出	64	0
消費支出の部合計	217,850	223,505

■施設設備整備計画（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
理科用実験器具一式	267
財務サーバー等の構築	531

平成23年度 事業報告



岡山理科大学専門学校

建築と動物そして魚のスペシャリストを養成。学生、保護者、高等学校、地域、関連業界の皆様へ支持される学校を目指します。



「使命」

われわれ専門学校に課せられた使命は、時代の進展に合わせた教育を図り、社会にとって有為で、且つ即戦力ある人材の育成を使命とし、更に、人道の「心」を醸成することを併せて本校の使命とします。

「方針」

「学ぶ」の語源が「真似ぶ」であるとするならば、社会にとって有為な人材を養成するには、その専門に卓越した教師でなければなりません。そして、社会を追随する教育ではなく、社会を率先する内容で人材の育成がなされなければなりません。その使命を果たすには、私を含め教職員がそのための研鑽を怠ってはなりません。

最先端科学が進行する現在、ややもすれば専門的な知識やテクノロジーが先行し、動植物の安寧が置き去りにされるケースがしばしば見受けられます。そのようなことは、決してあってはならないことであります。

アルベルト・アインシュタイン博士は、「人間にとって最も大切な努力は、自分の行動の中に道徳を追求していくことです。」と言ひ遺し、福島県出身の野口英世博士は、「人は能力だけではこの世に立つことはできない。たとえ、立身しても機械と同様だ。人は能力と共に徳を持つことが必要である。」と言ひ遺しています。

科学を志す者の本志は、偉人たちが遺してくれたこれらのメッセージに含まれる真意を尊重し、人々の生活を豊かにし、動植物に安寧を与えるものでなければなりません。

全学科が自然科学系に属する本校では、「科学を学ぶ心の育成」にも力を入れ最先端の学問の上に、教職員が一丸となつて、「心ある有為な人材の育成」を目指します。

岡山理科大学専門学校 校長 小林 正文

教育並びに施設の充実

■きめ細かい教育

チューター並びにサブチューターを中心とした教職員が学生個々を把握し、専門技術の習得はもとより、学生とのコミュニケーションを密にとり学習意欲の維持、メンタル面のサポート、就職活動の啓蒙等から満足度の高い学生生活のサポートを目標としてきました。専門教育の重要性、青年期の精神面等についての講演会を今年度後期より、RS特別講義として開始しました。技術面だけでなく、心の教育や就職後社会での活躍に対応出来る人材の育成を考えた講義で、講義後は学生から質問が出るなど大変好評でした。

■産官学連携の教育

平成21年度より、真庭市と包括教育協定を締結しました。そして、平成22年度は「温泉」をキーワードに動物系学科で「温泉入浴の動物に対する効果」の研究や、建築学科においては「温泉街の活性化プラン（例）」の提案など自治体と専門学校の連携による教育を開始しました。動物の温泉入浴実験について、昨年は研究の初歩段階であり、特に夏場ではデータのばらつきが大きかったため、今年度は精度の高い実験を計画し、動物看護学科を中心に「犬の温泉入浴による生理活性効果」の研究を進めてきました。この2年間の研究成果を、去る11月19日に大阪国際会議場で開催された第32

回動物臨床医学会年次大会において、入浴による保温効果とストレス不可の減衰につながるデータとして発表しました。そして、12月5日には報道関係の皆さんにも研究の中間報告としてその内容について報告をしました。

岡山県および岡山市が開催する動物の愛護啓蒙運動に積極的に参画することを目標とし、10月30日には岡山県動物愛護センター、11月17日には岡山市の獣医師会主催による動物愛護フェスティバルに学生および教職員がボランティア参加し、地元地域に貢献することができました。

アクアリウム学科においては、企業の受託研究を積極的に展開し、各種実験データから実用的な水生生物の飼育・繁殖を学びました。

■カウンセラーの配属

従来、精神的な悩みを抱えた学生は岡山理科大学等が招聘したカウンセラーに相談をしておりましたが、最近潜在的に悩みを抱えた学生が多く、平成22年4月より、本校に専門のカウンセラーを定期的に招聘し、学生並びに教職員の心の問題解決などのケアを行っています。今年度もこのカウンセリングを継続し、学生にとって一層利用し易くなるようにカウンセリング実施日を増やし、学生生活の充実を図ってきました。

今年度4月～12月までの期間で、学生から40件の相談があり、カウンセリングが悩みなどを抱えた学生の問題解決の一助となってきたと考えられます。

教職員の意識改革

■自己点検、自己評価 FD・SD

専任教員並びに非常勤講師を対象に実施している授業アンケートの結果を踏まえ、より良い授業が展開できるよう教材の改善及び教員の指導を実施してきました。

専任教員の授業担当時間を精査し、職位及び校

務分掌を考慮し、職務の均等化を目指し、また自己研鑽ができる時間を創出するよう配慮しました。

事務職員への対応及び施設設備等についてもアンケートを実施し、学生の満足度アップに繋げる改善を教育的考慮を加味しながら実践しました。

以上のように、今年度も授業アンケートを基に、本校での教育方法や学生との接し方、指導について検討を行い反映させてきました。

■コスト意識

人件費、光熱水費、教育・研究用消耗品については有効活用を図るため、合理化及び節約について事ある毎に啓蒙し、エコ教育に結びました。

特に、光熱費については学校内で節電ができ、削減ができております。

学科・コースの充実

■動物看護学科 3年制

動物の高度医療に対応する動物看護師の養成と動物看護師の制度化（公的資格化）に対応するため、従来の2年制コースに加えて、3年制のコースを平成22年度から開始しました。

少子高齢化が進む昨今、家庭内でペットはコンパニオンアニマルとして家族の一員となっています。そのようなコンパニオンアニマルの健康を獣医師と共に支える幅広い専門技術と知識を備えた動物看護師を養成します。また、3年制コースの目的は、動物看護の高度医療への要望、食品メーカーや産業動物分野等への職域の拡大、さらに動物介在医療の福祉分野のニーズに対応します。

今年度は動物看護職認定資格の制度化に伴い、動物看護学科3年制コースのカリキュラム改正を実施し、充実させました。

平成24年度に向けて

■新分野の学科創設

動物系の学科を立ち上げて9年が経過しました。多くの卒業生が、各現場で活躍しております。しかし、この業界は近年発展してきた新しい分野で今後の発展が期待されるものの、最近景気低迷等の影響から苦戦を強いられております。

そこで今後の岡山理科大学専門学校の繁栄を期して、既存の分野の建築系、アクア系及び動物系の学科と連携を図りながら、新しい教育内容の取組や資格取得に努めます。

犬のストレス負荷の特定器を医療機器メーカーと研究開発の予定です。

アクアリウム学科と建築学科のコラボによる、エコおよび自然環境の復元を視野に入れた屋上緑化の研究を計画中です。

■学校周辺の地元を対象とした学校見学会

地元の方々に本校の教育内容を知って頂くとともに、更なるご理解・ご協力を得るため、初めて平成22年9月に学校見学会を実施し、約30名の地元住民の方々に参加していただきました。来年度も引き続き、学校見学会を開催し、本校の教育内容や施設などを多くの方々に伝えていく予定です。

地元地域の学校等から要望があれば、生徒の地域研究などに協力し、地元地域の生徒たちに学校体験や教育内容を伝える予定にしています。

学生募集

■資料請求者の増加を図る

ホームページ、業者媒体などを通じて、資料請求者の増加をめざしました。

また、校内ガイダンスや進学相談会、資料頒布会などを通じて、高校生へのパンフレットを配布する機会を増やしました。

今年度も岡山県内を中心に中・四国地域の高校等に出向き、進学ガイダンスや説明会を展開しましたところ、現時点において資料請求者は増加の傾向にあります。

■オープンキャンパス参加者の増加を図る

ホームページや業者媒体を通じて、オープンキャンパス参加の告知を増やすとともに、資料請求者へのDMを用いることで、本校への見学者増加を目指します。この結果、オープンキャンパスの参加者は昨年（4月～12月時点）に比べ、若干の増加がありました。

■受験者の増加を図る

同分野を有する競合校との違いを明確にするため、オープンキャンパス、DMなどを通じて、受験生に対して本校のPRポイントを理解させ、受験生増加をめざしました。

特に、イベント開催日やトピックスなどについて各地にDMなどを配布し、細かく最新情報を伝えるようにしました。また、九州や四国地区の一部では、的を絞り無駄なく宣伝を行い、受験者が昨年より上回るように努めました。

■社会人の受験生増加を図る

18歳人口の減少に伴い、各学科において社会人受験生の増加に力を入れました。

このことにより、「社会人」入試の枠を設け実施し、昨年に比べ「社会人」の受験者増が図れました。

■広報強化地域

建築系及び動物系における学生確保が期待できる地域を分析して重点地域を設定するとともに積極的にメディアの利用、高校訪問、各種説明会を駆使して広報活動を展開しました。

学生募集は、昨年に引き続き広範囲に及ぶ広報活動を計画し実施します。九州や四国地区の一部に的を絞り、無駄なく広報活動を行い、オープンキャンパス参加者及び受験者が昨年を上回ることを念頭におき実施しました。

就職活動支援

■就職ガイダンス

これまでの課外時間（5時限）を利用した就職ガイダンスに加えて、ホームルームの時間を利用したクラス単位での就職ミニガイダンスを随時実施して、きめ細かい就職活動支援を行う機会を設けました。

主な就職ガイダンスの時期と内容は次の通りです。

- 1年生：10月 インターンシップの注意事項
11月 進路選択について
12月 情報収集と企業へのエントリー
3月 履歴書、面接試験について
2年生：5月 内定お礼状の書き方

■就職活動支援

1年次では12月の段階での進路希望調査書を基に1月より第一希望の分野を決定していきましました。動物系においても一般企業を希望する学生については2月より直ちに就職活動を開始させ、満足度の高い企業への就職を目指すよう指導しました。動物系専門職への就職は、3月以降のインターンシップ実習により第一志望企業への内定獲得を目指しました。

また、学生の就職意識啓蒙と就職相談の充実を図るため、就職課と各クラスチューターが連携をとって就職活動支援を活発に行いました。

主な行事

4月 8日	入学式
4月12日	授業開始
4月13日	授業開始
7月20日 ～8月19日	夏季休暇
9月 6日 ～10日	前期末試験
10月 1日	後期授業開始
12月23日 ～1月6日	冬期休暇
3月20日	卒業式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成23年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業 専門課程	建築学科(昼間部)	40	36	80	75
	建築学科(夜間部)	20	10	40	18
	福祉住環境デザイン学科(募集停止)		—	—	—
	計	60	46	120	93
商業実務 専門課程	映像情報学科	(募集停止)	—	—	—
	計	(募集停止)	—	—	—
文化・教 養専門課 程	動物看護学科 3年制	30	16	60	31
	〃 2年制	20	27	40	51
	トリミング学科	40	43	80	73
	ドッグトレーニング学科	40	49	80	83
	アクアリウム学科	40	37	80	69
	計	170	172	340	307
文化・教 養一般課 程	トリミング学科	(募集停止)	—	—	—
	ドッグトレーニング学科	(募集停止)	—	—	—
	アクアリウム学科	(募集停止)	—	—	—
	計	(募集停止)	—	—	—
計		230	218	460	400
建築学科専攻科		10	8	10	8
動物系総合学科研究科		10	13	10	13

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成23年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学 者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	181	154	148	96%	15	19	2	4

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成24年4月1日現在) (単位：人)

主な就職先	株式会社フジタ、株式会社荒木組、エス・バイ・エル・カバヤ株式会社、両備住宅 真庭動物医療センター、ほなみ動物病院、ペットワールドアミーゴアリオ倉敷、 水産総合研究センター屋島庁舎、丹後魚っ知館、宮津エネルギー研究所.他 118
-------	---

■教職員数

(平成23年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	0	11	12	13

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	23年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	348,573	335,147
補助金収入	342	356
その他収入	26,810	5,048
帰属収入合計	375,725	340,551
基本金組入額合計	△ 14,813	△ 3,750
消費収入の部合計	360,912	336,801
人件費	295,243	206,051
教育研究経費	87,364	85,290
管理経費	35,193	30,895
その他支出	3,193	2,201
消費支出の部合計	420,993	324,437

※人件費に退職給与引当金特別繰入額を計上しています(14頁参照)

■施設設備整備（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
4校舎1階ピロティ南側 舗装工事一式	180
1校舎2階講義室エアコン設備一式	714
標本震転機1台	270
女子寮給湯システム設備一式	350
財務システムパソコン一式	530

平成23年度 事業報告



玉野総合医療専門学校



21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



「学・術・道」の校是のもと21世紀社会の医療・保健・福祉・介護のニーズに応えられる専門職種育成を目指して、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みました。

本年度も引き続き教育支援の一環として基礎学力の向上、動機付けのためのリメディアル教育を取り入れました。

玉野市と(学)加計学園の包括協定をもとに地元根付いた学校を目指し、地域との連携を深めました。

入学定員確保のため教職員一丸となって広報活動に取り組みました。

玉野総合医療専門学校 校長 高井 研一

教学環境の整備

■教育支援の実施

新入生の学力を把握するために4月に基礎学力試験を実施し、基礎学力向上のために副校長および教務主任を中心として、リメディアル教育を実施し、1年前期に特別授業を行いました。

■新入生宿泊研修の充実

平成23年度は、玉野市内での新入生合同宿泊研修の内容を充実させ、学科を超えた交流を行い、コミュニケーション能力および仲間意識を強め連帯感を持たせる目的として行いました。

■国際交流・海外研修の実施

国際交流については、海外の教育交流提携校からの研修生を受入れ、学生主導による交流を図り国際理解・協力の一端を経験させました。

■教育・進路懇談会の実施

台風の影響で開催時期を変更しましたが、「教育・進路懇談会」を充実させ実施し、学校と保護者の間での情報交換や情報の共有を図りました。

■健康管理室の充実

様々な悩み等を抱えた学生をケアするために、カウンセリング等を充実させました。

学内環境整備

■スクールバスの運行維持

通学学生の増加に伴い、岡山～本校、倉敷～茶屋町駅～本校スクールバスの運行を継続し、通学環境を維持しました。

■教室等の環境整備

授業でパワーポイント及びDVD等の使用した授業が増えたため、実習室等にもプロジェクター等を設置しました。

申請・届出関係

■関連高等学校との連携

岡山理科大学附属中・高等学校および英数学館高等学校からの実習生の受け入れや本校教員を講師として派遣しました。

■保健看護学科のカリキュラム変更

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴う保健師教育内容の変更があるため、保健看護学科のカリキュラムを変更しました。

■介護福祉学科の改編（24年度以降計画）

平成19年度の法改正により「介護福祉士」の国家資格の要件が変更となりましたが、再度国会に置いて実施時期を延期することが決定しました。これに伴い、平成26年度入学生より国家試験の受験が義務化されることとなりました。

また、法改正により、実務者が国家試験を受けるための養成施設等の認可が受けられるよう、専攻科等の設置について検討を始めました。

地域との連携等

■教育協定校の締結

玉野市内等の高校と教育協定の締結をめざし、高校との連携を図り、地域に根付いた専門学校を目指します。今年度も昨年に引き続き、市内中学校2校と市内の高等学校1校で福祉の授業を実施しました。

■公開講座等の充実

今年度は3回の公開講座を実施し、玉野市民等に対して保健・医療・福祉分野の情報を幅広く積極的に提供しました。
また、玉野生涯学習センターおよび公民館での出張講座等を積極的に行いました。

■玉野市内の行事への参加

玉野市で開催される「たまの・港フェスティバル(5月)」「かつからか祭り(8月)」等の行事に学生および教員が積極的に参加しました。

また、10月に開催する学校祭「優勇祭」に市民団体等の参加を呼びかけ、多くの市民に来校して頂きました。

学生募集

■特別推薦入試（指定校）の見直し

平成24年度、全学科で特別推薦入試（指定校）の指定校を見直しました。（岡山県内及び山陰の高等学校を中心に見直し）

■職業訓練生委託事業の実施（介護福祉学科）

雇用対策の一環として平成23度も引き続き岡山県が実施する職業訓練事業（介護福祉士養成）の受け入れ先となり、介護福祉学科へ訓練生を受け入れました。

■教育協定校の締結

玉野市内及び近隣の高等学校と交流を深め、教育協定の提携に向け、市内中学校2校と市内の高等学校1校で福祉の授業を実施しました。

■入学金減免制度実施（専願学生確保のため）

- ・指定校で合格した学生の入学金減免制度を実施しました。
- ・玉野市内の高等学校からの合格（専願）した学生への入学金減免制度を実施しました。

■スクールバス運行の継続

スクールバスを岡山駅西口～本校間、倉敷駅～茶屋町駅～本校間を運行しています。学生に非常に好評であり、平成23年度入試においても効果がありました。また、岡山市内・倉敷市内・玉野市内においても本校をアピールすることができました。

引き続き、動く看板として運行を継続します。



■学校案内ビデオ(DVD)の一部変更作成

本校の紹介は、紙ベースのパンフレットと、動画(DVD)等を取り入れることにより受験生に本校の魅力を伝えることが出来ました。平成23年度も、内容等を一部変更し、より魅力的なDVDを作成しました。

■オープンキャンパスの充実

平成23年度オープンキャンパスの開催日数、及び内容を充実させ高校生に魅力あるイベントを実施しました。

また、山陰方面からの受験者が増加したため、平成23年度も引き続き送迎のためのバスを運行

しました。

■テレビCM等の実施

オープンキャンパスの周知及び専願制入試学生確保のため5月から8月の期間集中的にテレビCM等を実施しました。

また、本校の認知度を上げるため、茶屋町駅・児島駅・倉敷駅・西大寺駅に設置している看板を維持しました。

就職活動支援

■保健看護学科

就職担当教員による県内全域の主たる病院施設等への訪問、及び既卒者による各自の就職先の紹介、卒業前と就職後の各自の意識の違いなどに関する意見交換会を開催しました。

■介護福祉学科

就職担当教員による県内施設への求人状況の問い合わせを行いました。

■理学療法学科・作業療法学科

就職担当教員による県内外の本校実習施設及び病院施設等への問い合わせを行いました。

主な行事

4月4日	入学式
4月5日	前期講義開始
7月25日～8月5日	前期試験期間
8月6日～9月4日	夏期休業
9月26日	後期講義開始
10月22日～10月23日	学校祭
12月23日～1月5日	冬季休業
1月24日～2月8日	後期試験期間
3月10日	卒業式
3月22日～3月31日	学年末休業

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成23年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	45	160	156
	理学療法学科	40	34	160	155
	作業療法学科	40	25	160	104
	計	120	104	480	415
教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	40	23	80	57
	計	40	23	80	57
合計		160	127	560	472

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成23年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	112	103	96	93%	1	39	7	23

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成24年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山旭東病院、岡大病院、香川総合リハビリテーションセンター 心臓病センター榊原病院、慈圭病院、児島中央病院、玉野市民病院 他
-------	---

■教職員数

(平成23年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	2	28	31	8

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	23年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	480,638	484,502
補助金収入	26,084	28,038
その他収入	17,506	23,724
帰属収入合計	524,228	536,264
基本金組入額合計	△ 1,272	△ 320
消費収入の部合計	522,956	535,944
人件費	440,377	360,224
教育研究経費	149,224	168,462
管理経費	46,180	37,364
その他支出	23	535
消費支出の部合計	635,804	566,585

※人件費に退職給与引当金特別繰入額を計上しています(14頁参照)

平成23年度 事業報告



倉敷 食と器 専門学校

本校は、様々な季節の食材の特徴を生かすことのできる「シェフ」と「パティシエ」の養成を目的とし、同時に食べることと作ることの楽しさや喜び、食彩感覚を伝えることのできる職業人の養成を行いました。



本校は、専門的な技術と知識を備えた職業人の養成を目指した専門学校です。さらに

隣接する「倉敷芸術科学大学」とコラボレートを含めた独自の教育を推進しました。

また食べること、作ることの幸せを伝えることができる人材の育成に努めました。

さらにインターンシップにより、就職に対する意識の向上と就職活動への早期取り組みを指導しました。

なお、本校は今年度の新生を最後とし、来年度より募集停止し、在学学生全員が卒業する平成25年3月をもって廃止とします。

平成24年4月より、倉敷芸術科学大学調理師別科並びに製菓衛生師別科として再編します。

倉敷 食と器 専門学校 校長 亀井 秀人

特徴のある教育内容

■高度調理フードコーディネーター学科

1年次で、料理の基本や調理器具の扱い方を習得します。また和食と洋食の実習を通して、食材の特徴や調理の基礎を学び、かつ調理師免許取得に必要な理論の習得を行いました。

2年次に、和食、洋食をはじめ中華、寿司、麺、パスタ等の実習を行い、数百種に及ぶメニューを作ることで、実社会に即した調理師の育成に努めました。

また料理に欠かすことのできない皿や椀の制作実習を取り入れており、料理を活かすことのできる知識の習得を行いました。

■高度製菓製パン学科

1年次に製菓衛生師受験資格取得のための専門科目を履修し、2年次で国家試験を受験し、在学中に資格取得を行いました。

1年次に製菓及び製パンの製作技術の基礎を学び、2年次には洋菓子やパンや和菓子の製作技術だけでなく、見た目も華やかなスイーツが作れるように業界の第一線で活躍するプロの講師の技術指導を受け、さらにアメ細工など彩りの鮮やかさの表現力の習得も視野に入れた教育をしました。

またパンやスイーツとの調和のとれる器のデザ

インや制作実習も行い、コーディネート感覚も養いました。

■器デザイン学科

将来、陶芸家やガラス工芸家等の、ものづくりの職人になるための基礎技術や製作技術を習得しました。

器のデザインから制作までの知識や技術だけでなく、食に関する講義やフードコーディネートの講義を受けることで、食の視点から器について幅広く学習し、器とのコラボレーションを提案できるデザイン力を養いました。

学生募集計画

■高校訪問計画

平成24年度からの大学別科改編に伴い、今まで以上に高校訪問を強化し、入学者の確保に努めました。また、教職員全員でそれぞれの高校の担当を決めることで、高校との連携を強化し、当該高校からの学生の入学後のケアも視野に入れた広報活動を行いました。

■オープンキャンパスの充実

年間11回の体験実習の中に、専任教員による体験実習だけでなく、特別講師による体験実習を取り入れることで、生徒に実習の楽しさを知ってもらい、オープンキャンパス参加者を増やします。

また、参加者に対して、DMで学校のトピックス等を送ることにより入学者の確保を図りました。

■無料スクールバスの運行

スクールバスを井原、倉敷、新倉敷、茶屋町駅より朝、夕に運行しており、学生のほとんどが利用しております。今年度は、講義に合わせて運行しました。

■高校への出張講義の実施

高校へのお出張講義を実施することにより、学科の特色をPRして志願者の増加へ努めます。今年度は、本校での体験実習も積極的に受け入れ、更なるPRを実施しました。

■高校での説明会を増加

大学との合同進路ガイダンスへの参加や、高校での校内説明会に積極的に参加し、志願者の増加に努めました。

■ターゲットの拡大

24年度の別科開設に向けて、ホームページの一層の充実や進学情報誌等へ掲載による、大学生や既卒者、社会人の募集に努めました。

就職活動計画

■就職活動の意識向上

インターンシップにより、就職に対する意識向上を図り、就職指導に活かして行きます。学生に対しても説明会を開催することで就職活動の早期取り組みに結びつけ、就職率向上に対処しました。

■就職ガイダンスの開催

外部のガイダンスに積極的に参加していくとともに、学内のガイダンスの回数を増やし、1年次には心構え・言葉遣い・社会生活の基本等、2年次には就職試験指導・模擬面接等きめ細かく指導しました。

人事について

川上雅之校長の退任に伴い、新たに倉敷芸術科学大学事務局長の亀井秀人が校長に就任いたしました。

主な行事

4月 5日	入学式
8月 1日	前期試験（～8月5日）
8月 6日	夏季休業
9月26日	後期開始
10月29日	文化祭（～10月30日）
12月22日	冬季休業（～1月 6日）
2月 6日	後期試験（～2月10日）
3月 4日	学年末休業（～3月31日）
3月23日	卒業式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成23年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
衛生 専門課程	高度調理フードコーディネート学科	40	14	80	31
	高度製菓製パン学科	40	25	80	58
	計	80	39	160	89
文化・教 養専門課 程	器デザイン学科	20	3	40	7
	計	20	3	40	7
合 計		100	42	200	96
高度陶芸ガラス創作研究科		10	0	20	0

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成23年度)

区分	卒業者	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
倉敷 食と器 専門学校	53	49	47	95.9%	0	1	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成24年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	ラ・ヴィール岡山、(株)シダックスフード、天城保育園、水島共同病院、山陽フードサービス (株)ブルミッシュ、(株)ロマンライフ、(株)マリア・テレジア、堤製パン(株)、岡山製菓(株) 他
-------	--

■教職員数

(平成23年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
(1)※	1	5	6	6

※校長は倉敷芸術科学大学事務局長と兼務

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	23年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	103,998	108,436
補助金収入	186	203
その他収入	798	2,818
帰属収入合計	104,982	111,457
基本金組入額合計	△ 380	△ 203
消費収入の部合計	104,602	111,254
人件費	134,459	118,334
教育研究経費	56,127	63,001
管理経費	10,859	21,569
その他支出	2	128
消費支出の部合計	201,447	203,032

※人件費に退職給与引当金特別繰入額を計上しています(14頁参照)